

第3節 曲金北遺跡の木製品について―田下駄を中心として―

曲金北遺跡の調査においては、総数666点の板状田下駄が出土している。静清平野では瀬名遺跡などからも大量の田下駄が出土しており、曲金北遺跡のものと合わせると静清平野の田下駄の形態の特徴、編年等についてまとまった資料となりうる。この節では静清平野の他遺跡との比較・検討を通して当遺跡の田下駄の特徴や機能について触れてみたい。

1. 穿孔形態をめぐって

田下駄の平面形態と並んで特徴となるのが緒孔の穿孔形態である。曲金北遺跡で出土した田下駄の緒孔の穿孔形態は大きく次の4つに分類することができる。

A類 幅・直径が2 cm以上に大きく広がっている孔で実測図では稜線が孔の周囲をめぐる。

断面形は丸味を帯びる。

A-1類 正方形の孔

A-2類 円形の孔

A-3類 縦長の楕円形の孔

A-4類 横長の楕円形の孔

B類 幅・直径が2 cm未満で実測図では周囲に稜線がめぐる。以下、A類と同じくB-1類からB-4類までのタイプがある。

C類 穿孔の際の刃先痕が孔の周囲に付けられているもの。

C-1類 方形の孔で表裏から刃を当てている

C-2類 縦長の楕円形で、孔の上下に刃先痕が多く残り、稜線は乱れた形態

C-3類 方形または円形を旨とする
が定まらず周囲に刃先痕が
残り稜線も乱れる

D類 垂直に刃を当てて穿孔されている。
小孔で1～2 cm幅。

D-1類 円形の孔

D-2類 横長の長方形

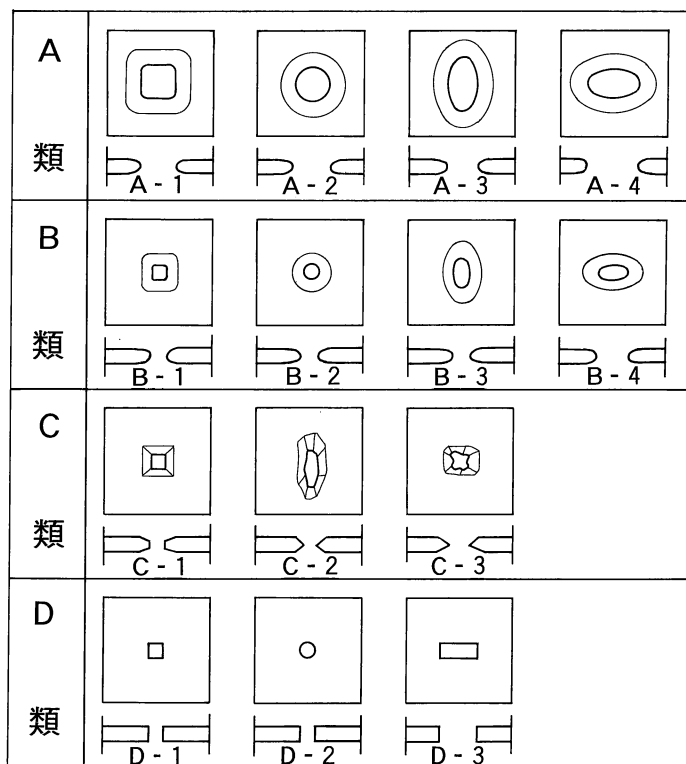
D-3類 方形の孔

これら穿孔時の加工方法については山田昌久氏に当遺跡の実見していただき、次の4点について教示を受けることができた。

①静清平野における田下駄には曲金北遺跡と同じ穿孔形態が見受けられ大きな特徴となっている。瀬名遺跡や池ヶ谷遺跡でも同様の穿孔パターンを見ることができ

る。
②鉄器を使用しているだろうが、石斧でも同様の刃先痕が見られ工具の断定はしにくい。

③A類については孔の周囲が磨滅によって



第115図 田下駄穿孔形態の分類図

広がったと考えられ、使用頻度の多さを物語っている。

- ④田下駄は自作されて使われていたと推察され、穿孔形態の差は個人の所有する道具の差を反映していると考えられる。

穿孔形態のそれぞれの割合は遺跡により異なるのであろうか。点数もまとめ、穿孔形態も明らかな瀬名遺跡と比較したのが第76表である。報告書の実測図からの判断であるため、微妙なずれはあるかもしれないが、断面図とも合わせて判断した。対象としたのは、瀬名遺跡174点、曲金北遺跡239点である。

A－4類が3倍以上の開きを見せていることにまず注目したい。A－4類は横に長楕円形に広がっている形態で、穿孔時の形というよりも使用によって磨滅し広がりを持つと言える。そのため孔の周縁部が薄くなっている点の特徴である。A類全体を比較してみても、瀬名遺跡の27.6%に対し曲金北遺跡では49.4%と全体の半数を占めている。A類はいずれも磨滅により広がっていると考えられる穿孔形態で、前述したように使用頻度の多さによる。

田下駄の編年を組むことのできる瀬名遺跡におい

ては、このように広がる緒孔を持つ田下駄を弥生時代中期後半の初源的な田下駄において確認することができる。また、特定はできないものの石製鑿状工具の使用を想定している。曲金北遺跡においては田下駄の出土層位に明確な時代差を見い出すことができず、時代を限定することは困難である。

しかしながら、瀬名遺跡の田下駄編年を援用しつつ、A類における磨滅という要素を加味するならば他の穿孔形態のものよりも古い時期の田下駄という推測も成り立ちうる。同時に、磨滅が著しく使用に耐えられなくなった田下駄が廃材として畦畔の芯材に使われたのであれば、A類の割合の大きさも納得できる。

次に注目したいのがC－2類の差の大きさである。瀬名遺跡において時代の特定できる田下駄で見ると、この穿孔形態をとるのは弥生時代後半から古墳時代前期のもので、鉄製の穿孔道具の使用が考えられる。曲金北遺跡の15%がこれに当たる。同じく鉄製の穿孔道具を使用したと考えられるのがD類で、C類よりは幅が狭く鋭利であろう。瀬名遺跡においてはD－3類の割合が大きく工具の差によるものと思われる。C類、D類を合わせて考えると、曲金北遺跡における鉄製工具の使用は、垂直に幅の狭い刃先を当てるというよりも、小刀状の工具で何回も切り刻んでいくという過程を読みとることができるだろう。個人レベルでの所有工具の差、地域や集団間の差が穿孔形態の差となって表れているのかもしれない。

2. 表面積について

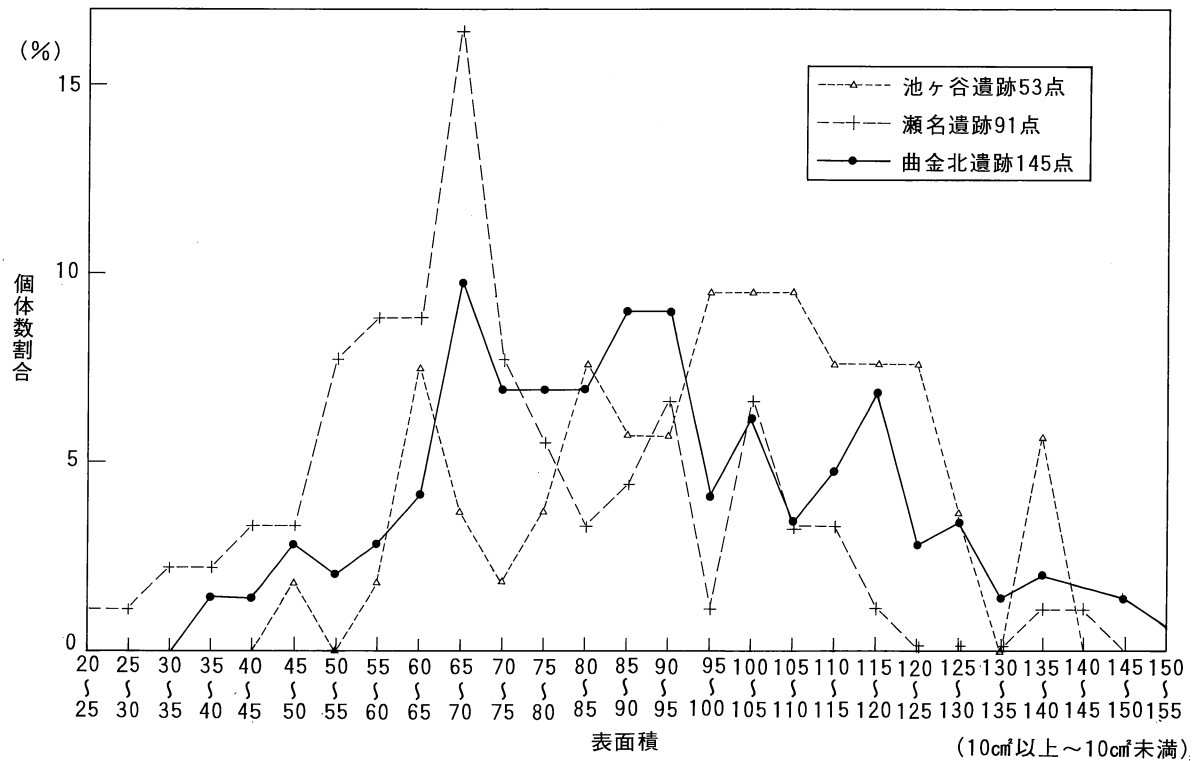
静清バイパス建設に伴う発掘調査の中で、数多くの田下駄の出土を見ることができたが、そのうち良好な資料として点数もまとまっている池ヶ谷遺跡と瀬名遺跡との比較・検討を試みたい。

第76表 曲金北遺跡と瀬名遺跡の穿孔形態比較

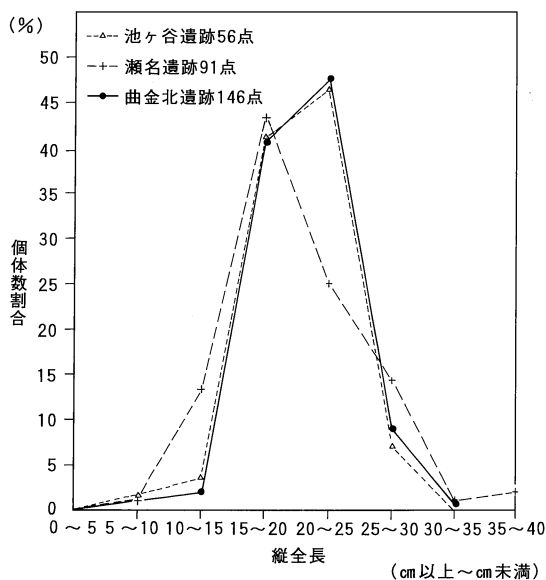
分 類		曲金北遺跡 (%)	瀬名遺跡 (%)
A類	A－1	15.0	12.7
	A－2	9.6	5.8
	A－3	4.2	2.8
	A－4	20.6	6.3
	小計	49.4	27.6
B類	B－1	5.4	15.6
	B－2	4.2	6.3
	B－3	1.7	1.7
	B－4	1.2	4.0
	小計	12.5	27.6
C類	C－1	3.3	1.7
	C－2	15.0	5.8
	C－3	6.7	1.1
	小計	25.0	8.6
D類	D－1	12.7	35.7
	D－2	0.0	0.0
	D－3	0.4	0.5
	小計	13.1	36.2

表面積の比較については、残存状態が良く欠損の少ない横長の田下駄を選び出し、プランニメーターで計測を行った。対象としたのは池ヶ谷遺跡53点、瀬名遺跡91点、曲金北遺跡145点である。

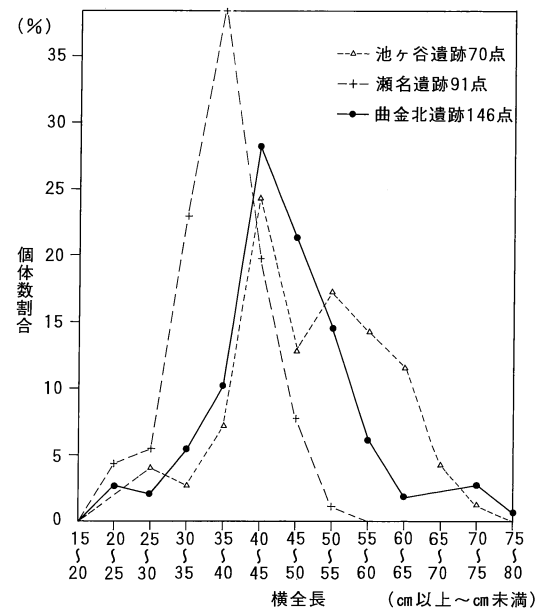
第116図には表面積の分布比較を示す。横軸に取った50cm²ずつ区切った範囲内に分布する割合を示している。500cm²～750cm²の狭い範囲内に集中が見られる瀬名遺跡に比べて、分布が右方向にずれる池ヶ谷遺跡は田下駄が長大化していると言える。麻機低湿地に位置し強湿地水田である池ヶ谷遺跡は、長尾川の押し出した多量の土砂の上に堆積した地形に立地する瀬名遺跡よりも表面積を広くすることで浮力



第116図 他遺跡との田下駄表面積の分布比較



第117図 他遺跡との縦全長分布比較



第118図 他遺跡との横全長分布比較

を増していると考えられる。これと同様なことが民俗例にも見られ、富士市浮島沼周辺では深い田では3尺ナンバと呼ばれる横幅90cmもの田下駄を使用していたという。普通の田下駄が30cm～40cmであるのと比べればかなり大きいことがわかる。

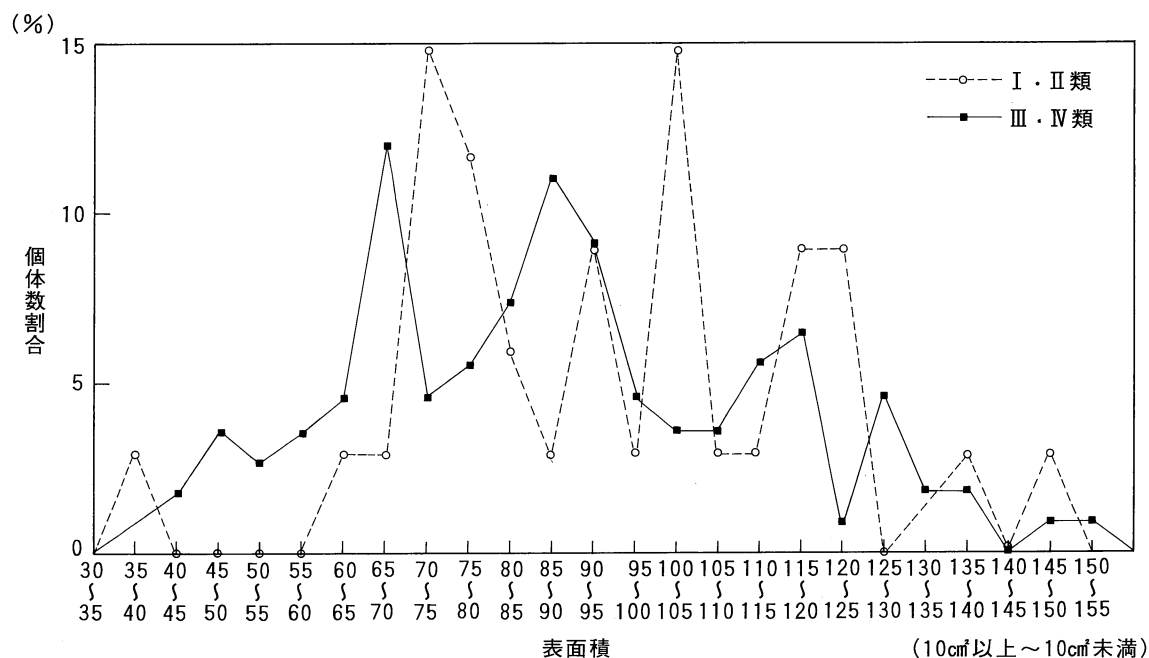
曲金北遺跡の田下駄の表面積は両者の中間に位置し、分布の範囲も650cm²～950cm²の中に多く見られる。ばらつきも少なく、正常曲線に近い形を示す。水田土壌の違いという観点から見れば、瀬名遺跡と池ヶ谷遺跡の中間的な性質の土壌ともとれるが、このデータだけで判断することは無理であろう。

第117図は縦全長の数値の分布を比較したものである。5cmずつ区切った範囲内にそれぞれ何%が分布しているのか割合を示している。曲金北遺跡と池ヶ谷遺跡の分布がほぼ一致している。瀬名遺跡はそれよりも5cm～10cm短いところにピークがある。同じ方法で田下駄の横全長の分布を示したのが第118図である。面積の分布と似た傾向になるが、集中の度合いがより明瞭になっている。瀬名遺跡の集中の度合いの強さに対し、池ヶ谷遺跡は大きく2つの分布に分かれ、かつ大型であると言えよう。曲金北遺跡の横全長は分布が集中し、サイズの同じ傾向を持つ田下駄を製作・使用していた様子が窺える。水田土壌を反映し、規格性のある田下駄を製作していたといえよう。

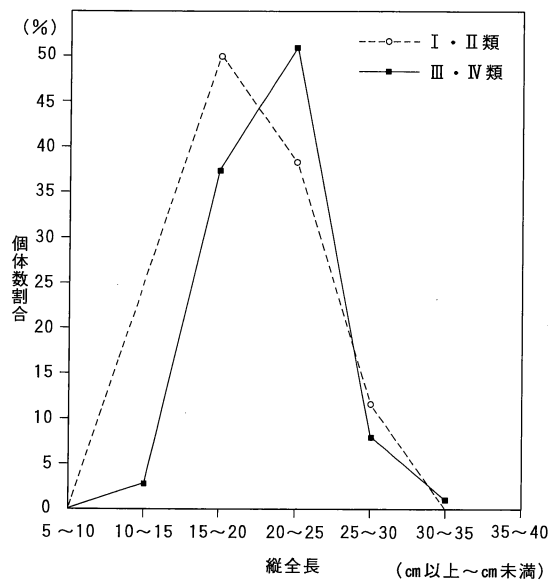
次に曲金北遺跡の田下駄244点について、各形態分類ごとのを比較・検討をしてみたい。

足台のあるⅠ類・Ⅱ類と足台を持たないⅢ類・Ⅳ類の表面積の分布比較を示したのが第119図である。前出の図と同様に50cm²ごとの範囲内に分布する割合を示したものである。Ⅰ・Ⅱ類、Ⅲ・Ⅳ類とも面積のピークは大きく3つに分かれるが、足台付き田下駄の分布の方が少しずつ右にずれる傾向を示しており、足台のない田下駄よりも若干大型であることがわかる。ところが縦全長の分布比較図を見ると、足台付き田下駄のピークは足台なしの田下駄よりも5cm～10cm下に位置する。横全長では逆に5cm～10cm大きくなっていることがわかる。すなわち足台のある田下駄は縦に短く、横に幅を広げることで足台のない田下駄よりも大きな面積を確保しているといえよう。

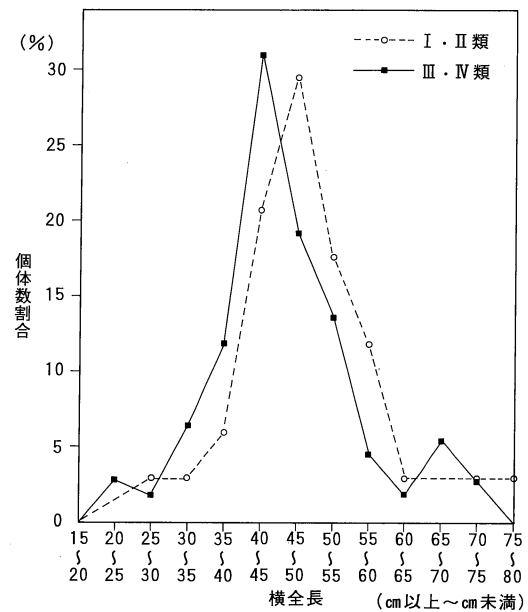
Ⅲ類の田下駄だけについて比較したのが第122図である。面積の分布を比較するとⅢ－1類、Ⅲ－2類は全体の傾向をほぼなぞるような変化を見せているのに対し、Ⅲ－3類は1150cm²～1300cm²に大きな分布を持つ。第123・124図を合わせて見るとさらにⅢ－3類が大きめであることがはっきりしてくる。面積の平均では同じ横長の形態であるⅢ－2類が888.1cm²なのに対し、Ⅲ－3類は946.7cm²と開きがある。



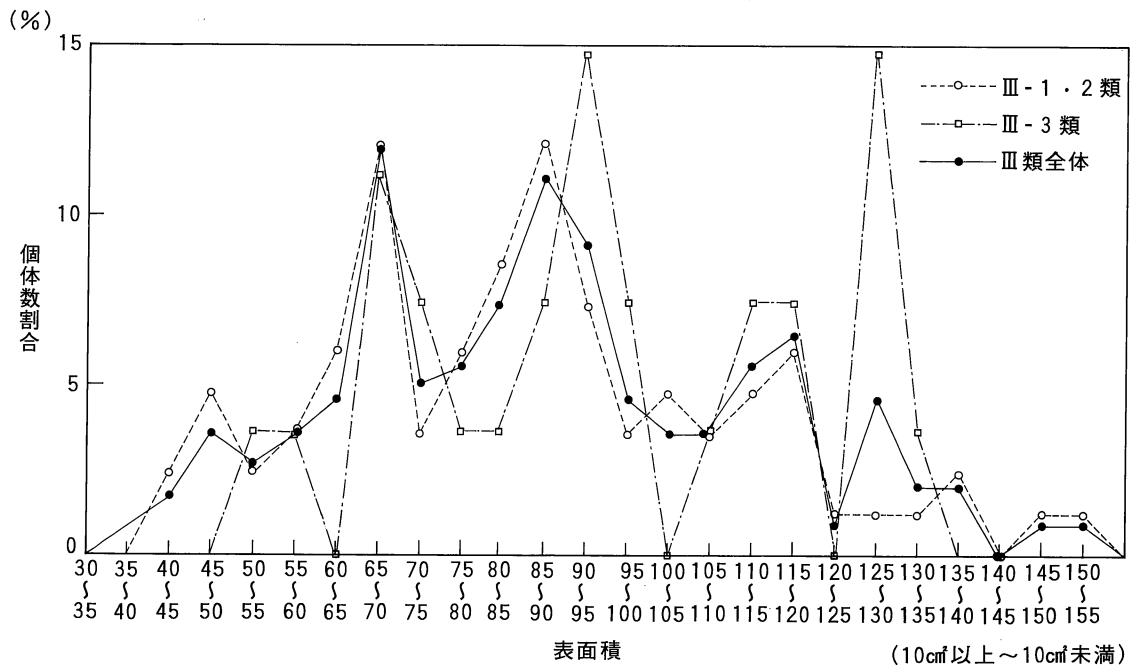
第119図 Ⅰ・Ⅱ類とⅢ・Ⅳ類田下駄の表面積分布比較



第120図 I・II類とIII・IV類田下駄の縦全長比較



第121図 I・II類とIII・IV類田下駄の横全長比較

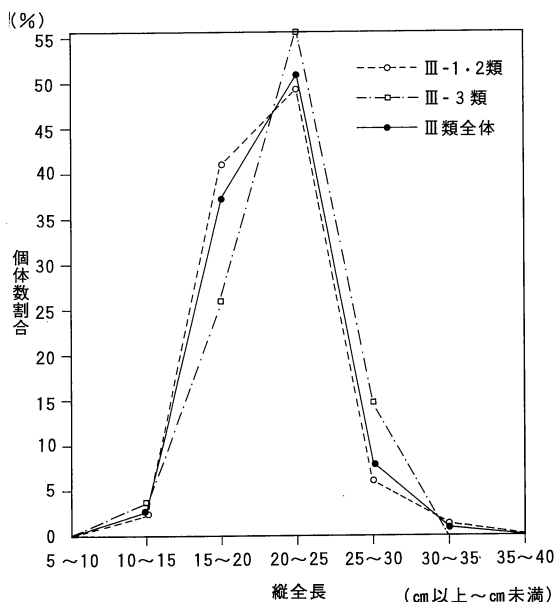


第122図 III類田下駄の表面積分布比較

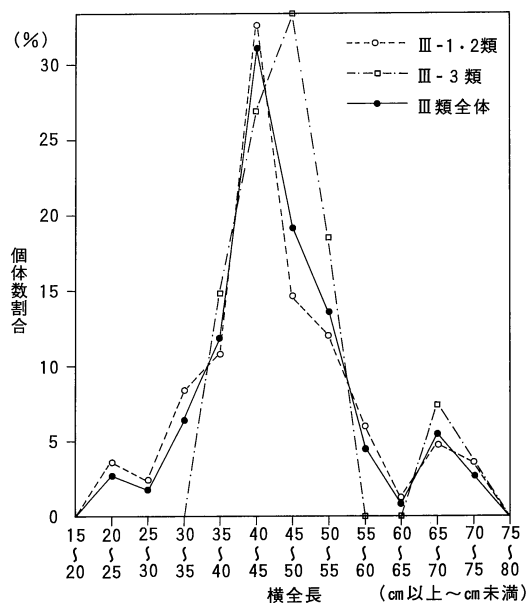
前述したようにIII-3類は緒孔以外の孔を持つ田下駄で、他の用途の木製品を転用したと考えて良いだろう。田下駄として再利用するには、①元来の木製品に穿孔する程度で、大きさを揃えるなどの加工を施さずにそのまま使用したのではないか、②孔の数が多いため浮力を得にくく、その分横に広げて沈みにくいようにしたのか、等が考えられ面積の大きさの要因になっているとも推測される。

3. 計測値から

ここまでは田下駄の法量および面積について検討したが、穿孔位置を中心とした計測値についても考察する必要がある。おそらく田下駄は個人レベルで自製されていたと思われ、水田土壌の条件や集団内の製作方法が形態等に反映されていることが予想されるためである。静岡市麻機地区で現在も使用さ



第123図 III類田下駄の縦全長比較



第124図 III類田下駄の横全長比較

れている田下駄を実見した際に所有する中川さんから伺ったお話では、田下駄は各自、各戸で作り使用していたという。弥生時代の田下駄においても穿孔形態のばらつきなどからみて個人レベルでの製作と推測される。

計測に当たっては瀬名遺跡の方法等に修正を加えて、第125図のように計測部位を設定した。

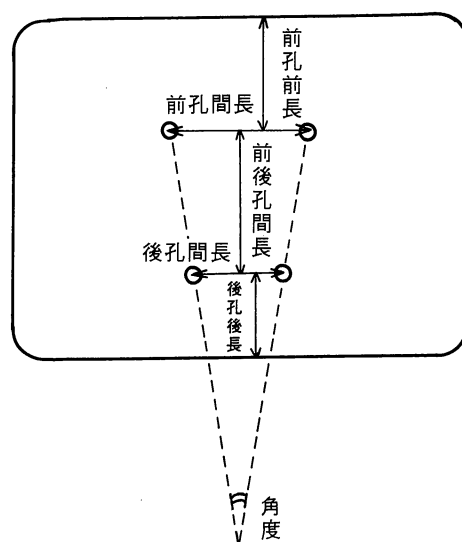
前孔間、後孔間は孔の中心間の距離を表す。前孔間を結ぶ直線に前端部から降ろした垂線を前孔前長、後端から後孔間を結ぶ直線に降ろした垂線を後孔後長とする。また、前孔間から後孔間に降ろした垂線を前後孔間とする。そして、前孔と後孔を結ぶ線が交差する際の角度も計測した。各類ごとの平均値をまとめたのが第77表である。なお、法量、穿孔形態などと合わせたこれら計測値については第80表～第84表の一覧表にまとめた。

平均値を見ると、各類とも前孔間の方が後孔間に比べて1.1～1.8cm 長く距離をとっていることがわかる。特にIII類の前孔間は後孔間よりも長くなっており、I類に比べ足の形状に合わせて穿孔していると言えよう。この差はそのまま角度の差にもつながる。

前孔から後孔を通り田下駄の後方で交差する際の角度は、I類、II類、III類の順に大きくなっていく。同じ足台付きの田下駄であっても、段差のあるII類の方が角度は大きく、より足の形状に近い計測値を示している。

前孔前長と後孔後長の差にも注目したい。両者の差を比べるとI-3類が2.7cmと最も大きくなっているがこれは対象点数が3点のみのためであり、他との比較には適さない。各分類の差を比べると、やはりIII類が大きく、III-1類は1.9cm、III-3類では2.1cm にもなる。意識的に後端に寄せて緒孔を作っていることは、足の形状に合わせた位置で穿孔をしているといえ、また、中山氏が指摘する板状田下駄をバランスよく緊縛するためのものであろう。

一方、形態面からだけでなく機能面から考えた際に、



第125図 田下駄計測部位名

第 77 表 田下駄計測値の平均

分 類	前孔間 (cm)	後孔間 (cm)	前孔前長 (cm)	後孔後長 (cm)	前後孔間 (cm)	角度 (度)
I - 2 類	10.3	9.2	5.6	4.1	11.8	7.9
I - 3 類	11.0	9.9	7.2	4.5	10.8	7.5
II - 1 類	9.5	8.3	5.3	3.9	11.2	8.6
II - 2 類	9.4	8.0	4.7	3.7	12.0	10.3
III - 1 類	11.6	10.4	5.4	4.5	12.0	10
III - 2 類	9.6	8.0	5.2	3.8	11.1	11.3
III - 3 類	9.5	7.7	5.9	3.8	10.9	12.2

大村氏は穴の位置が「かかとへ体重をかける」はき方につながるかに目を向けている。踵に体重をかけることで水田での体重移動がすみやかに行えると指摘する（1995年 『民具マンスリー』28巻4号）。

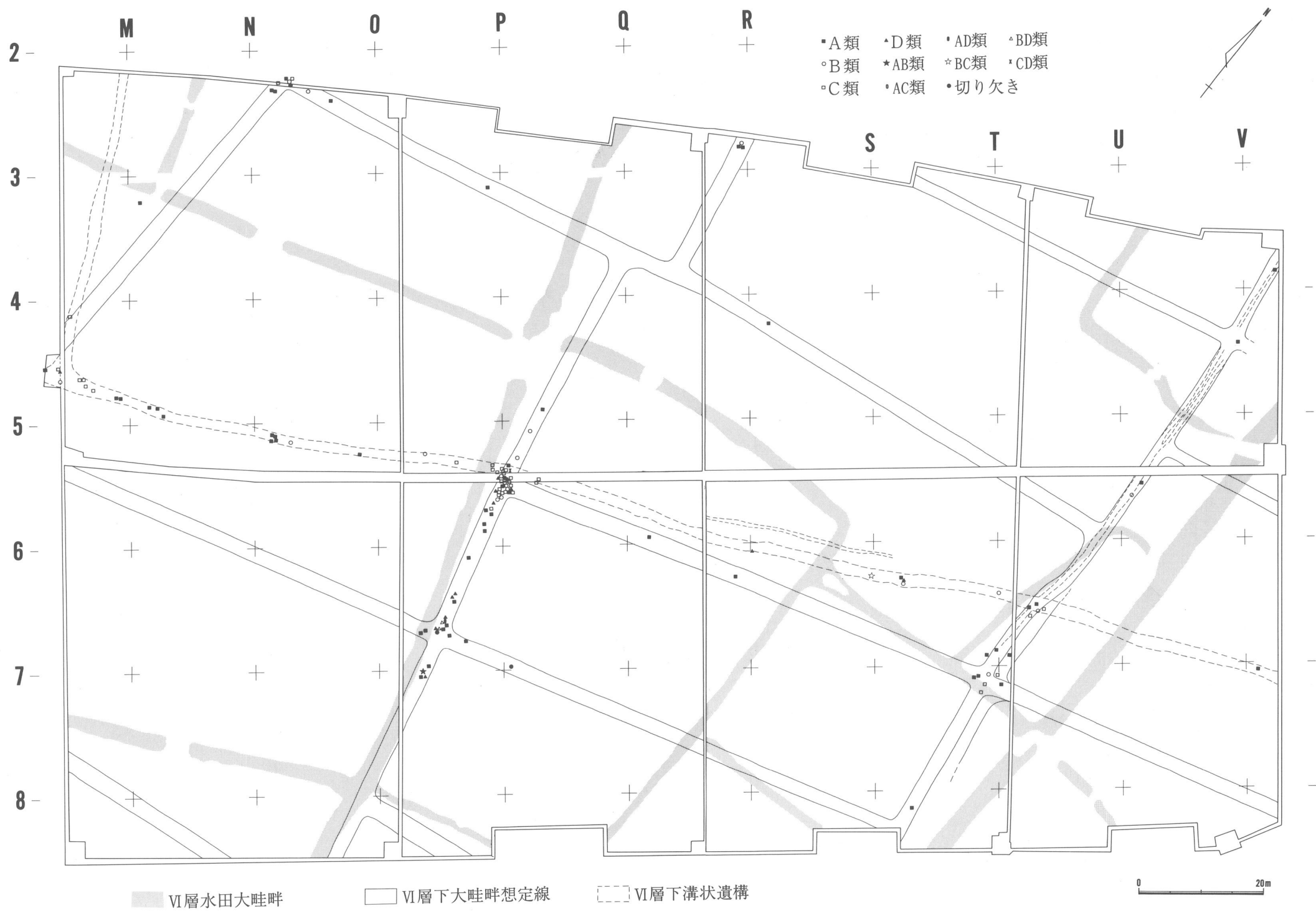
4. 穿孔形態別の出土状況から

これまで述べてきた穿孔形態別の出土分布状況を示したのが第126図～第128図である。第1調査区からは田下駄の出土はないため、第2・3・4調査区について出土状況を記した。実線で表したのがVI層下面に作られた大畦畔の想定ラインで、ほとんどの田下駄はこの畦畔に芯材として埋め込まれていた。弥生時代後期～古墳時代前期と考えられる水田である。一方、スクリーンストーンで示したのはVI層水田の大畦畔で一部下面の大畦畔と重複しながら作られており、古墳時代中期の水田と考えられる。また、破線で示したのはVI層下面の下から検出された水路で、第2調査区の東端から第3調査区に延びるものをSD101と呼ぶ。SD101の覆土中および覆土上からも田下駄等の木製品が出土しており、水路を埋めた際に補強するために使われたのであろう。

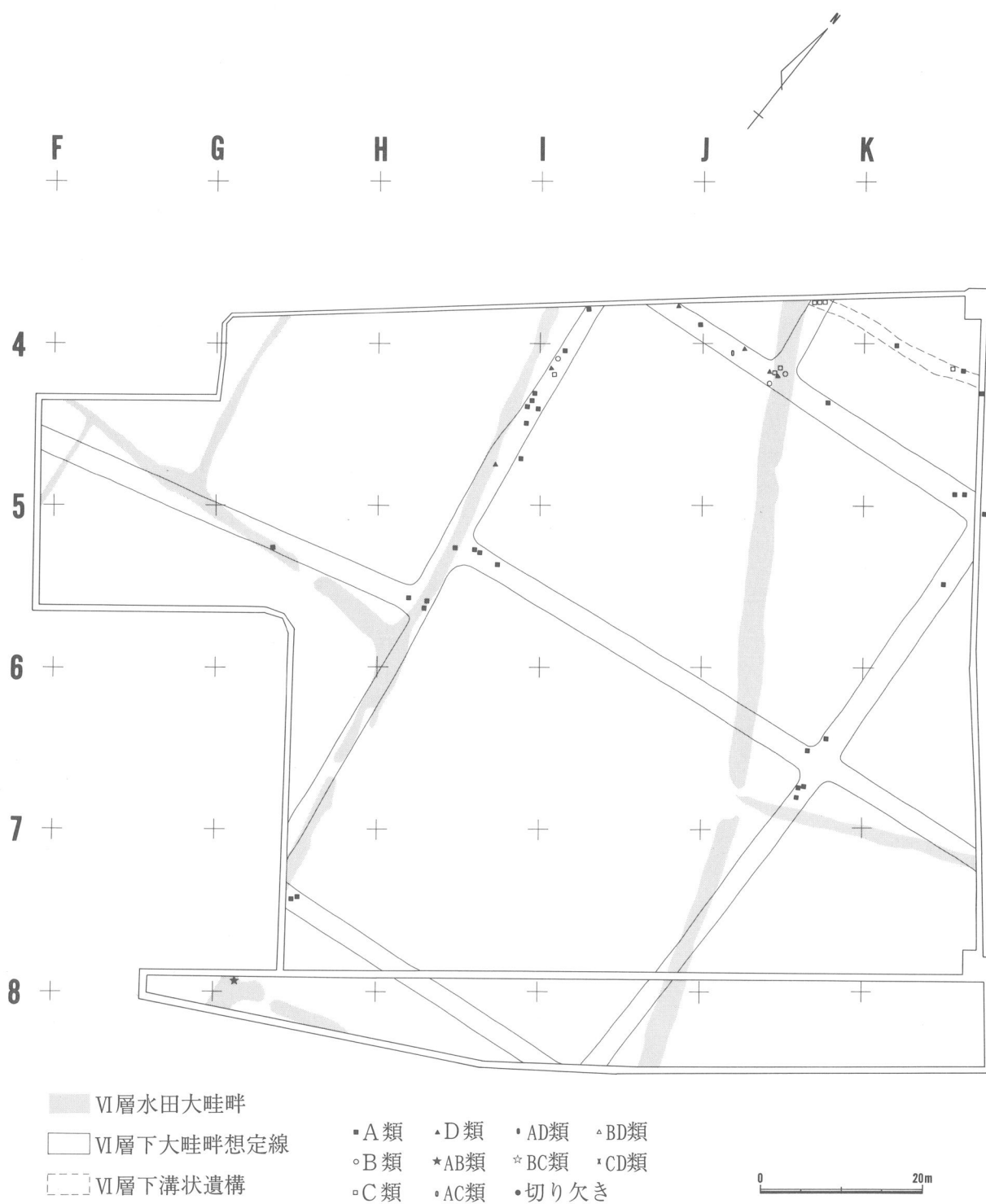
VI層下面大畦畔の出土状況を見ると、畦畔の交点部分に集中している。また、南北方向の畦畔の補強が際だっており、東西方向から加わる外圧を防ごうとする意図が見られる。第2調査区のP5グリッドとP6グリッドに挟まれた交点部分には田下駄が集中して見られ、穿孔形態で分類するとC類が最も多い。穿孔時の刃痕が明瞭に残り、楕円形あるいは方形を示す形態である。この交点部分から南に延びる大畦畔とO7グリッド付近の交点にはA類の田下駄が多い。これは磨滅によって方形あるいは長楕円形に広がった形態の孔である。このA類は第2調査区⑧のN2グリッドの交点にもB類、C類とともに出土している。

第2調査区から第3調査区に延びるSD101に伴って37点の田下駄が出土している。このうち、SD101覆土上からは34点、SD101の覆土中からは3点の田下駄が見られる。SD101覆土上から出土した34点はほとんどがA類およびC類でありBC類とD類が1点ずつ含まれている。この出土状況はVI層下面大畦畔と同じであり、溝を埋めた時期とVI層下面の水田経営を開始した時期との間に大きな時間差が無いことを予想させる。一方、SD101の覆土中から出土したものは81、83、163の3点のみである。81と83はほぼ正方形で厚みをもつ作りが特徴的である。163もやや横長だが小型でやはり厚みのある田下駄である点が似ている。SD101の覆土中からは弥生時代中期後半の土器が出土しており、3点の田下駄もそれに近い時代と考えられ、当遺跡では最も古い時期の田下駄であると言える。

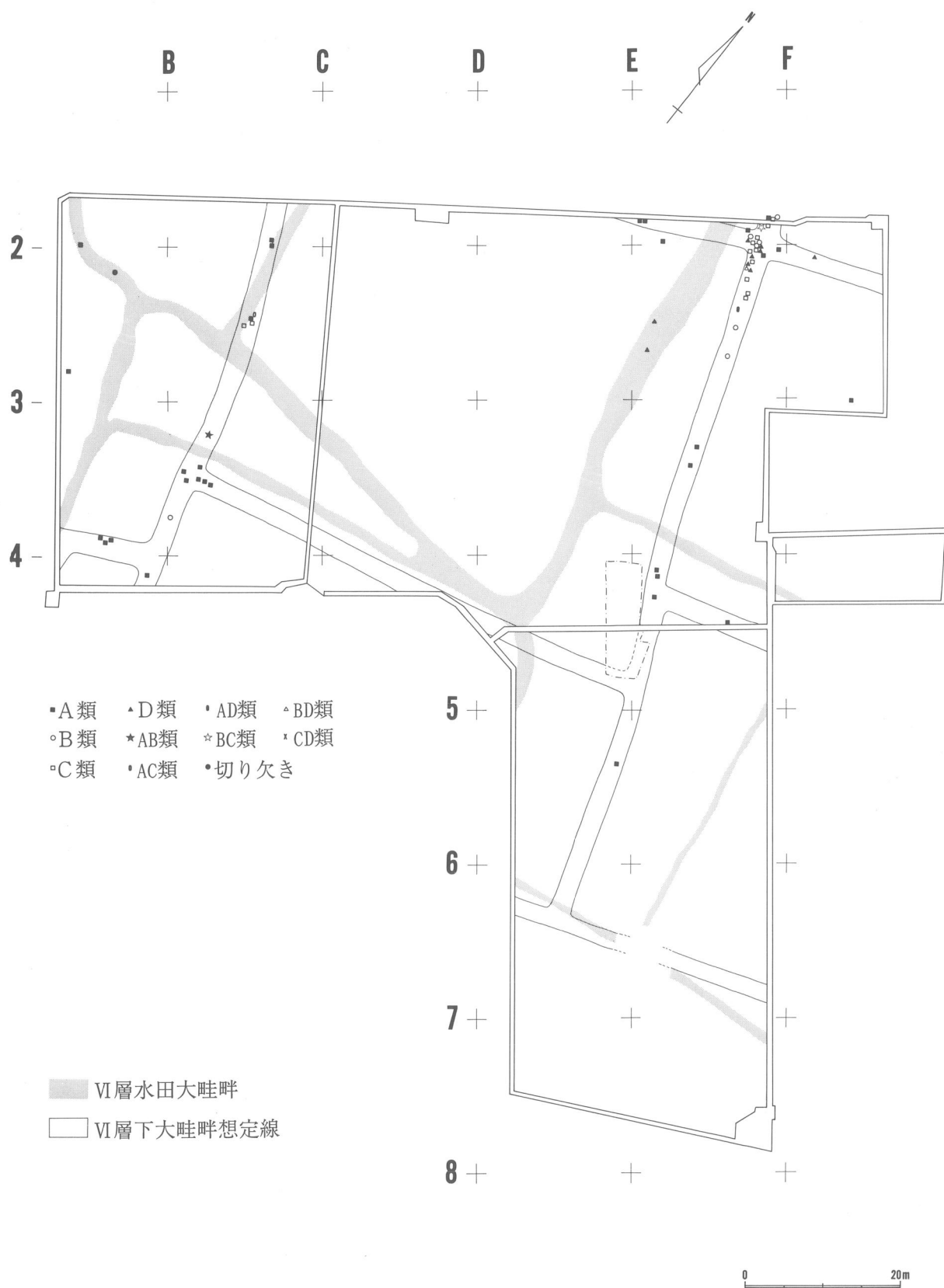
第3調査区拡張区においては、2区と同様に南北方向のVI層下面大畦畔を中心にA類の田下駄が多く出土している。畦畔の交点部分にもA類が多い。緒孔が広がり磨滅が見られるこのタイプが多いのは、使用に耐えられなくなった田下駄を芯材に使用しているためであろう。また、SD101覆土中で出土した古



第126図 田下駄穿孔形態別の出土分布図Ⅰ（第2調査区）



第127図 田下駄穿孔形態別の出土分布図2 (第3調査区)

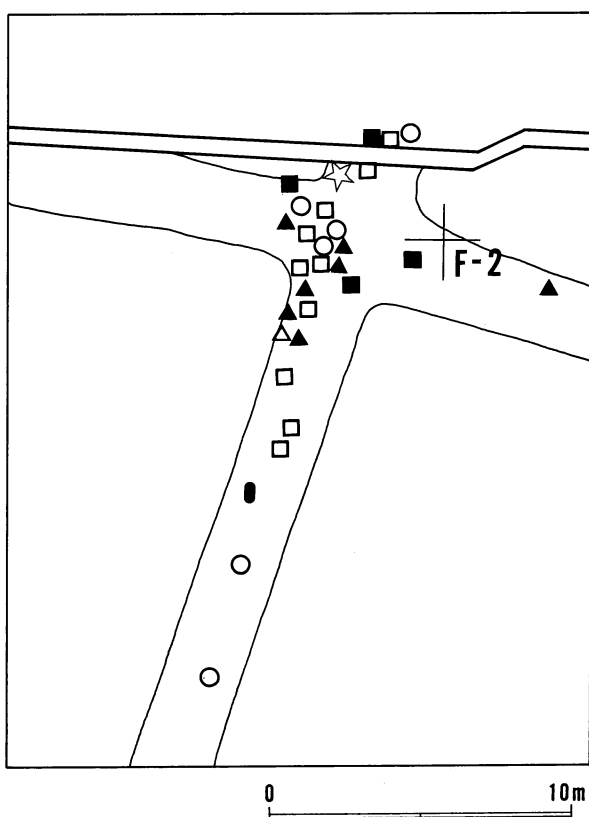
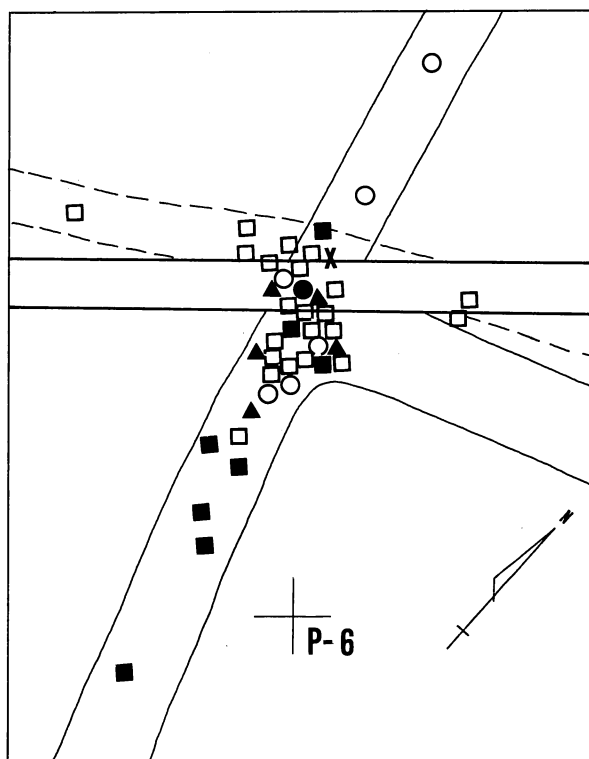


第128図 田下駄穿孔形態別の出土分布図3 (第4調査区)

い時期の正方形の田下駄と同様のものがこの拡張区に集中している点が注目される。H 5 グリッド北側の畦の交点部分には79、80、89の3点が出土し、K 7 グリッド西の畦畔からは82の田下駄が出土している。この交点付近の畦畔は田下駄の形態だけから考えれば弥生時代中期の可能性もあるがそれ以外に判断の材料は見つかっておらず、推測に留まる。

第4調査区でもやはりVI層下面大畦畔の交点部分にA類の田下駄が多く見られるが、F 2 グリッドの交点においては様相が異なり穿孔の際の刃痕が粗く残るC類および小孔が垂直に穿たれているD類が多く見られる。また、A類ほど大きくはないが孔の広がりを持つB類も若干見受けられる。これは第2調査区P 5 グリッドの交点と似た状況を示しているのである。また、第3調査区、第4調査区においては調査区の北側に田下駄が集中する傾向が強い。第2調査区同様、南北畦畔に他の木製品と共に多く出土しており、東西方向から加わる外圧のためと考えられる。

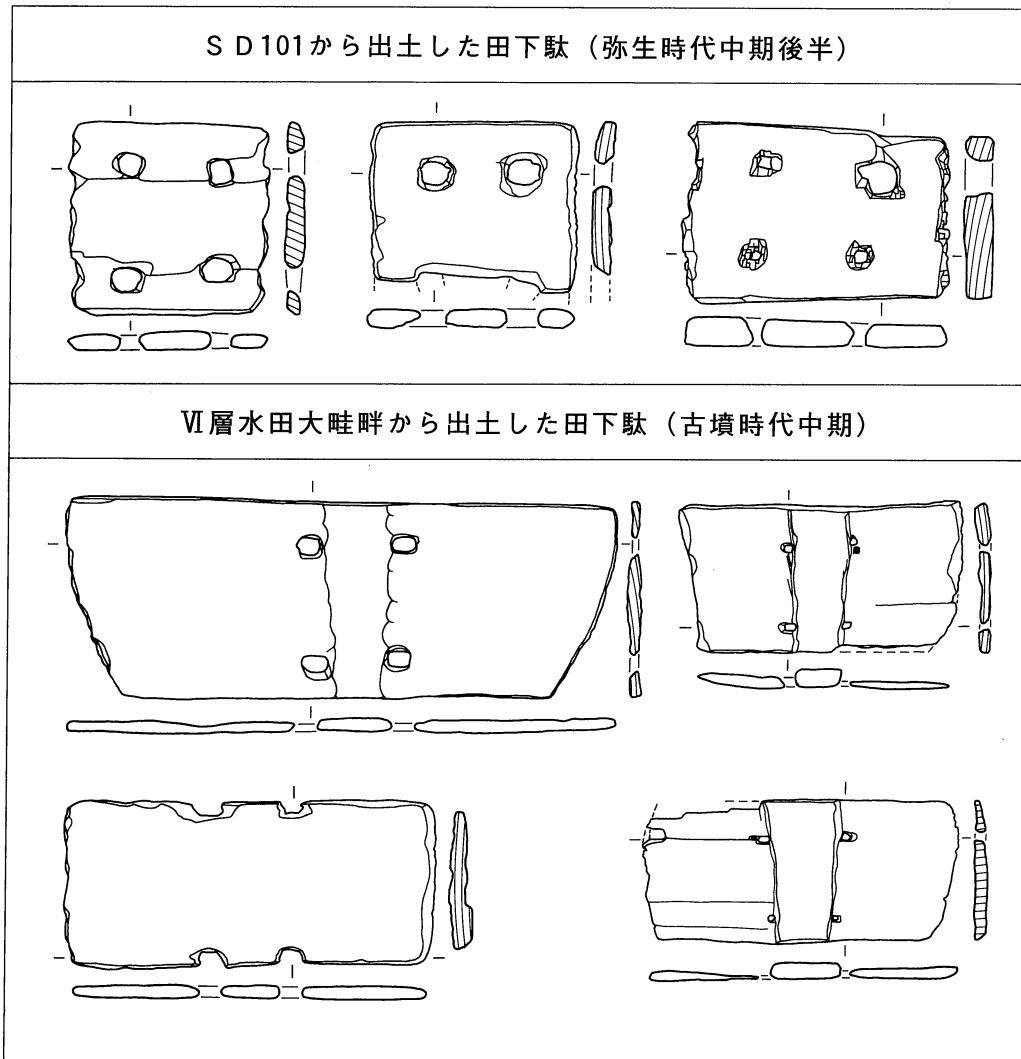
第4調査区においてはこれまで見てきた調査区とは異なり、VI層水田の大畦畔から4点の田下駄が出土している。VI層水田は古墳時代中期に比定されるものでVI層下面の田下駄とは明らかに時代を分けられるものである。12、60、76、244の4点の田下駄で、60と76はVI層下面、12と144はVI層中から出土しているがVI層水田の畦畔に伴うものである。このうち、244は上・下端の側面に切り欠きを作って緒孔の代わりにしているタイプである。このタイプの田下駄は他に4点出土しているがそれらはVI層下面から他の形態の田下駄とともに出土しており、弥生時代後期から使い始められ古墳時代中期まで使用されていたことがわかる。12、60、76も同様の時代幅を持つと考えられる。VI層水田にはこれら以外には田下駄の出土は明確に認められず、この時期以降には輪カンジキ型田下駄が代わって出現する。



第129図 田下駄穿孔形態別の出土状況図（拡大）

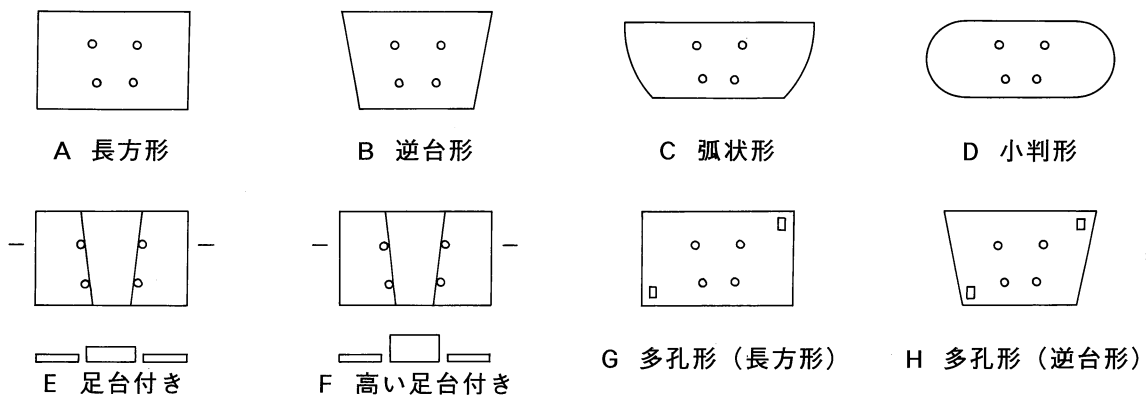
5. 田下駄の歩行実験から

今回実測、計測を行った244点の田下駄について、計測値の平均を求め、それを基に8タイプのモデルを製作し、実際に水田で歩行実験を試みた（第131図）。足台付きの田下駄についても平面形のバリエー



第 130 図 時代の異なる田下駄実測図

ションを用意すべきであろうが、足台のない田下駄の歩行実験により平面形による差は確認できるとの判断で長方形だけに限定した。足台が隆起するⅠ類については、足台部分が平均で0.2cm盛り上がる程度で、長方形の田下駄と差がないために実験対象からはずし、代わりに足台厚が6 cm の高いものを使用した。歩行実験に使用した8種類の田下駄の模式図とサイズは第78表の通りである。なお、縦全長、



第 131 図 歩行実験に使用した田下駄の模式図

第 78 表 歩行実験に使用した田下駄の法量

種類	縦全長	横全長	厚さ	足台厚	前孔間	前孔前長	後孔間	後孔後長
A	20.6	47.0	1.9	—	9.6	5.2	8.0	3.8
B	20.6	前50.3 後40.8	1.9	—	9.6	5.2	8.0	3.8
C	20.6	前48.0 後35.0	1.9	—	9.6	5.2	8.0	3.8
D	20.6	前40.4 最大50.4	1.9	—	9.6	5.2	8.0	3.8
E	20.7	47.0	1.4	2.9	9.5	5.3	8.3	3.9
F	20.6	47.0	1.9	6.0	9.6	5.2	8.0	3.8
G	20.6	47.0	1.9	—	9.6	5.2	8.0	3.8
H	20.6	前50.3 後40.8	1.9	—	9.6	5.2	8.0	3.8

(単位cm)

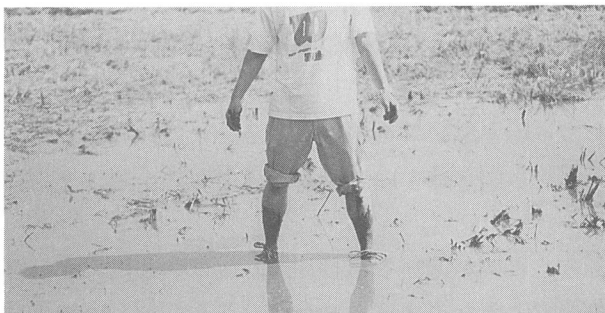
横全長、厚さ以外の法量についてはEはⅡ－1類の平均値を、その他のモデルについてはⅢ－2類の平均値をもとに製作した。

今回の実験のねらいは平面形態の差によって生ずる歩行への影響である。これについては物理的に数値を求めることは困難であるため、①沈みにくさ ②土離れの良さ、という2つの観点に絞り、歩行した際に得られる感触をもとに検討した。この2点に絞った最大の理由は、水田での作業効率に大きな影響を与えると考えられるからである。田下駄が曲金北遺跡において数多く(出土点数の総計は666点である)使用されていたということは、その必要性の大きさを裏付けている。水田作業において欠くことのできないものになっていたはずで、より機能的なものを求めていたのではないだろうか。その要求を満たすために平面形などに工夫や改良がなされたことも推測される。ゆえに先の2つの観点を定めた。沈みにくく、かつ土離れの良いことが湿田での歩行を容易にし、農作業の効率を高めることにつながるであろう。

1つめの観点「沈みにくさ」を考えると8種類の田下駄にほとんど差は見られない。厚さ1.9cmの田下駄では足の甲が埋まる程度であった(写真左)。同じ水田で田下駄を装着しない場合には、およそ30cmまで沈み込んでしまう(写真右)。田下駄の浮力は予想以上に大きいことがわかる。

Fの田下駄は足台表面までが6cmもあるため、足の裏に水が及ぶ程度の沈み方であった。水が冷たいという状況、あるいは長く水田の中にいなくてはならない場合には足がほとんど沈まないこの足台の高さは意味のあるものである。このような高い足台を有する例は曲金北遺跡では53の7.3cm、55の4.6cm、62の4.7cmが挙げられる。また、後述するが足台があることにより足台の前端部分に足の指を曲げてつかむことができ、田下駄を引き上げる際に力が有効に伝わるというメリットが浮かび上がってきた。ただし、6cmもの足台になると田下駄と足の密着感が頼りなく、歩行に際しては不安定である。

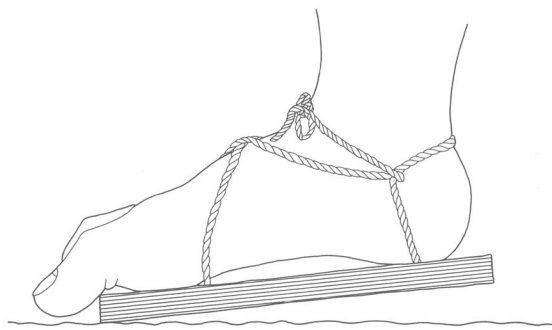
G、Hは緒孔以外の孔を有するもので、転用して田下駄に作り直されたと考えられ、転用以前の孔をそのまま残してあるものである。実験用田下駄製作に当たっては同じ大きさの方形孔を左右に1孔ずつ



田下駄を履いた状態



田下駄を履かない状態

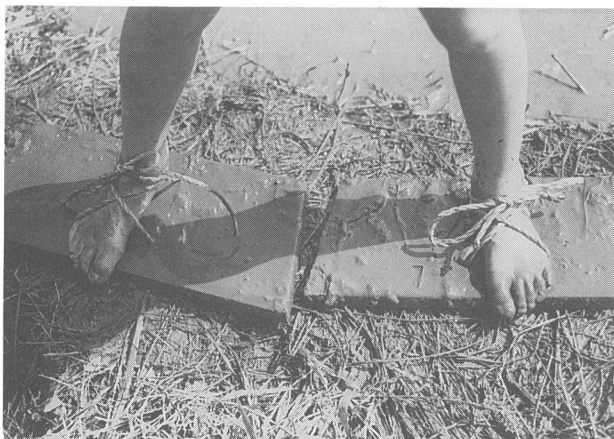


第 132 図 田下駄装着復元図

状の田下駄をさす) の用法として「固いくれの田を一挙に泥状にし、ガスを除き酸素を補給する」と紹介している。仮に弥生時代後期の水田において田下駄が代踏みに使用されていたならば、孔が余分に開いている田下駄も機能的に考えられてのこととなるが、今の段階ではそれを裏付けるだけの確証は得られていない。機能論を別にするならば、必要に迫られ、使用済みの板材を転用して田下駄に作り直したと考えるのが妥当であろう。

次に第 2 の観点「土離れの良さ」について検討したい。その前に、田下駄を装着して歩行する際の足の運び方を確認すると次のようになる。

- ①足の指、特に親指を曲げて田下駄の前端部をつかむ。
- ②踵から先に引き上げる。



田下駄装着状態

- ③引き上げた足を移動し、田下駄の後端を先に田面につける。

- ④残りの部分を田面におろす。

つまり、親指で田下駄をつかみ、踵から引き上げ、また踵から順におろしていくという歩き方である。強湿地では親指で前端をつかむことにより踵部分をスムーズに引き上げることができる。

親指を中心とする足の指を前端部にかけることで、足の前部が田下駄と密着する。そして、足の甲に緊縛された紐が後孔につながり田下駄の後部に力を伝えて、田下駄の後部を容易に引き上げることができる。その際重要なのは後孔の位置であ

る。計測によって明らかなように、前孔前長と後孔後長の平均を比較するとⅢ-2 類では 1.4cm 後端寄り、Ⅲ-3 類では 2.1cm も後端寄りに穿孔されている。また、瀬名遺跡 77 点、池ヶ谷遺跡 30 点、川合遺跡 10 点、長崎遺跡 2 点を集計すると 3 cm 前後後端に寄っているとの結果も見られる(『瀬名遺跡Ⅲ(遺物編Ⅰ)』)。

後孔が後ろ寄りに位置していれば、甲から伝わった力は田下駄後部を引き上げるのに役立つわけで、逆に後孔が中央寄りに位置していると田下駄後部を田面から引き離すのに過大な負荷がかかることになる。

足指を前端部にかけるための田下駄の縦の長さはどのくらいが適当であろうか。田下駄の横全長は多様であるが、縦全長に関しては静岡平野における遺跡間で大きな差は見られない。曲金北遺跡の平均値

は21.0cm（対象244点）、瀬名遺跡では20.2cm（同91点）、池ヶ谷遺跡20.0cm（同56点）、上土遺跡20.3cm（同25点）であり、ほぼ一定の値になる。これは親指が前部にはみ出すことを前提とした縦長の決め方である。今回の歩行実験では小学生（足のサイズ23.0cm）小柄な女性（同21.0cm）にも装着していたが、21.0cm というサイズでは歩行中に緊縛部から足がはずれてしまった。23cm 前後またはそれ以上であれば歩行に支障のない縦の長さの決め方とも言えよう。

土離れを良くするためには、田下駄の縦の長さ、後孔の位置という意図的・基本的な構造の上に平面形の多様なバリエーションの工夫という二重の構造が見えてくる。平面形で土離れの良かったものを順に並べると、E－C－D－B－AあるいはC－E－D－B－Aであった（ここでは平面形の差異だけに焦点を絞るためにF、G、Hは除く）。後部両端が丸く削られている点、または逆台形、低い足台のついているものは長方形の田下駄と比べて明らかに土離れが良い。成人男女各2名に歩行してもらった共通の結果である。B、Cについては後部が狭いことから接地面積が少なく、土から引き離しやすい。また、Dについても同様のことが言えるが、Dは前部も狭いため、前に体重をかけた際にB、Cに比べて沈み込みがやや深いという印象を得た。また、BとCを比べた際にCの方が歩きやすいという感想を得られたが、側面から後部にかけて弧状になっているため、足運びの際に他方の田下駄と接触しないことによる。

異なる要因で土離れの良かったものがEである。他の田下駄が1.9cmの厚さなのに対して、平坦部分で1.4cm、足台部分で2.9cm という違いによるもので、田下駄の軽量化ひいては歩行の容易さにつながる（田下駄の重量の変化については第79表参照）。また、足台の前端部分は厚くなっているために親指がかかりやすく、田下駄と足がより密着するという結果をもたらす。従って、土離れもさほど力を必要としない。薄く軽い点と足指をかけやすいという足台付き田下駄の長所が明らかになったわけである。これまでの結果から、足台付き田下駄については足を水や泥の冷たさから守る点と、田下駄の軽量化と足がかりの良さという相反する必要条件を同時に満たすという2点が今回の歩行実験から導き出せる。ただし、これだけの実験からだけでは断定するに及ばず、足台付き田下駄の機能等については今後さらに検討が必要であろう。

平面形態により土離れに差が生ずることが明らかになったことで新たな疑問が生ずる。効率的な形態に集約されるという画一化の方向に向かわなかったのはなぜか。C、D、Eという形態を選択することが水田作業の効率化につながるであろうが、実際にはⅢ－2類においては全98点の内、長方形51点、逆台形13点、後部隅丸形26点、隅丸型8点で、長方形が実に52%を占めている。これら長方形の中には長大な田下駄が見受けられ、88の横全長53.1cm、150の横全長57.1cm、153の横全長65.7cm、174の横全長71.7cm、182の横全長72.6cm、183の横全長70.0cm が挙げられる。田下駄の機能として稲刈り時の身体沈下防止と言われるが、はたしてこれだけ長大な田下駄が稲刈り時に有効であろうか。この点については佐々木長生氏が、田下駄が代踏みに使われていた可能性を推察している（1994年「福島県内の湿田農具－田下駄を中心に－」『福島県立博物館紀要 第8号』）。代踏みとしての機能を考えるならば、表面積の広い長方形田下駄の方が効率が良いことになる。長大な田下駄は浮力を増すという目的以外に、代踏みという異なる機能を持っていたとも十分考えられる。

一方、足台付きの田下駄の平面形態に目を向ける

第79表 歩行実験に使用した田下駄の重量比較

種 類	合計重量 (g) 実験前	合計重量 (g) 実験後	増加率
A	2020	2390	118%
B	1690	1980	117%
C	1630	1840	112%
D	1890	2210	116%
E	1390	1610	115%
F	2450	2690	109%
G	1820	2470	135%
H	1710	2070	121%

と、長方形と断定できるものは78点の内、わずか12点（全体の15.4%）に留まり、残る66点（全体の84.6%）は逆台形、隅丸型などになる。前述の通り、今回の歩行実験で明らかになった足台付き田下駄の長所は、親指がかかりやすい点と軽いという2点である。これに84.6%という数字を当てはめると、足台付きはまさに歩行を容易にするための形態と結論づけられるのではないだろうか。指で田下駄をつかみやすい、軽い、土離れの良い形態という3点を足台付きの田下駄は兼ね備えていることになる。

このように考えてくると、足台付きの田下駄と足台を持たない田下駄では、用途により使い分けられた可能性が考えられる。歩行しやすいことを旨とした足台付きの田下駄は、もっぱら稲刈りを中心とする作業に用いられ、足台を持たない田下駄のうち特に長大なものについては稲刈りにはむしろ使い勝手が悪く、代踏み等の作業に適するのではないかと推測される。明確な機能の分化というよりも、状況に応じてある程度の使い分けがなされた可能性があったと考えられる。

歩行実験から得られた田下駄の形態による歩きやすさと、そこから考えられる田下駄の機能についての検討を試みた。歩行実験という一側面からの考察であり、今後さらに多様な面からの検討が必要であろう。

今回の実験に当たっては登呂遺跡の水田を使用させていただき、実験に際しては登呂博物館の学芸員である、中野氏、大村氏、浅野氏、さらに博物館ボランティアの方々に御協力をいただいた。また、田下駄の機能や形態形態についても貴重な意見を伺うことができた。この場を借りてお礼を申し上げたい。

〈参考文献〉

木下 忠編：『湿田農耕』岩崎美術社 1992

佐々木長生：「福島県内の湿田農耕」『福島県立博物館紀要』8号 1994

大村 和男：「田下駄の穴から－民具研究法のゆくえ－」『民具マンスリー』第28巻4号 1995

今西 卯蔵：「はきもの変遷史」『日本履物新聞』1960

潮田 鐵雄：「わらじ」『民具研究ハンドブック』雄山閣 1985

（財）遺芳文化財団 日本はきもの博物館・日本郷土玩具博物館：『'95年度年報』1995

第 80 表 田下駄計測表 I

No.	登録 番号	区	層 位	分類	横全長 (cm)	縦全長 (cm)	足台 厚 (cm)	厚 (cm)	前孔 間 (cm)	前孔 前長 (cm)	後孔 間 (cm)	後孔 後長 (cm)	前後 孔間 (cm)	角 度	木取り	孔 形	面 積 (cm ²)
1	W922	2-①	VI層下面	I-1	45.8	21.6	2.0	1.8	10.7	5.4	8.6	4.6	11.1	11	追衤目	C-3	
2	W921	2-①	VI層下面	I-1	42.7	(12.2)	2.1	2.2	—	—	—	—	—	—	板目	B-1	
平 均 値					44.3	21.6	2.1	2.0	10.7	5.4	8.6	4.6	11.1	11			
3	W3490	2-⑤	VI層下面	I-2	59.8	18.8	2.4	1.9	13.9	3.7	13.3	3.7	11.2	—	板目	A-1	
4	W2102	2-③	VI層下面	I-2	49.8	18.4	2.5	1.5	12.8	4.0	11.9	3.3	10.3	—	板目	A-2	820.0
5	W1764	2-④	VI層下面	I-2	39.4	25.3	2.1	1.7	10.6	8.5	10.8	5.5	16.2	—	追衤目	A-2	
6	W2299	2-⑥	VI層下面	I-2	50.7	17.9	1.7	1.2	10.2	5.1	8.7	2.1	10.6	8	板目	A-4	
7	W1123	2-①	VI層下面	I-2	47.6	24.3	—	1.7	11.9	9.4	9.6	3.2	11.6	11	板目	A-4	
8	W1888	2-③	VI層下面	I-2	36.6	(14.7)	1.6	1.3	—	—	—	—	—	—	板目	A-4	
9	W2417	2-⑥	VI層下面	I-2	48.7	26.3	—	3.0	10.2	5.1	9.8	8.7	10.9	—	板目	C-2	1243.3
10	W3204	2-⑤	VI層下面	I-2	42.4	25.1	—	2.1	10.2	7.1	9.5	5.9	11.7	—	板目	C-2	
	W3059																
11	W4091	4-②	VI層下面	I-2	30.3	20.3	—	2.3	8.4	5.6	7.1	2.0	11.8	7	追衤目	C-3	555.6
12	W3772	4-③	VI層下面	I-2	58.3	21.4	—	1.6	10.2	6.7	8.9	3.8	12.2	6.5	板目	A-4	1124.3
13	W4562	3-③	VI層下面	I-2	44.3	18.9	2.3	1.5	10.0	3.8	8.6	4.0	10.9	7.5	板目	B-1	772.4
14	W4283	3-③	VI層下面	I-2	36.1	26.6	—	2.5	9.6	4.0	7.7	3.0	14.2	8.5	板目	B-1	
15	W4047	4-②	VI層下面	I-2	76.9	21.3	—	2.6	8.0	5.9	7.2	3.3	11.8	5	追衤目	D-3	1472.7
16	W3257	2-⑤	VI層下面	I-2	41.2	18.6	2.4	1.8	7.9	4.3	6.5	4.2	9.9	9.5	板目	D-3	685.1
平 均 値					47.3	21.8	2.1	1.9	10.3	5.6	9.2	4.1	11.8	7.9			953.3
17	W4423	3-③	VI層下面	I-3	31.3	20.4	1.8	0.9	12.4	4.7	11.0	3.5	11.9	—	板目	A-1	613.3
18	W1969	2-②	VI層下面	I-3	33.9	22.2	1.7	1.2	9.9	8.3	9.2	3.3	10.5	—	追衤目	A-4	
19	W2322	2-⑥	VI層下面	I-3	47.8	25.6	2.4	1.5	10.8	8.6	9.6	6.7	10.1	7.5	板目	B-4	1189.7
平 均 値					37.7	22.7	2.0	1.2	11.0	7.2	9.9	4.5	10.8	7.5			901.5
20	W2292	2-⑧	SD101上	II-1	54.4	20.4	3.5	1.4	7.9	4.0	8.2	6.2	9.5	—	板目	A-1	
21	W4734	3-③	VI層下面	II-1	26.3	15.2	2.9	0.9	12.2	2.7	12.3	5.3	6.9	—	板目	A-2	353.7
22	W4294	3-③	VI層下面	II-1	41.2	20.4	2.3	1.7	9.7	4.0	8.3	4.0	12.0	6	板目	A-1	
23	W1470	2-④	VI層下面	II-1	48.4	23.3	2.5	1.0	10.5	6.3	8.4	4.9	12.0	10	追衤目	A-1	
24	W3917	4-③	VI層下面	II-1	41.0	23.5	2.3	1.4	9.8	7.2	8.8	4.2	11.9	6	板目	A-1	
25	W1780	2-③	VI層下面	II-1	49.5	18.3	7.4	1.5	10.6	4.1	9.5	3.9	10.1	7.5	板目	A-1	
26	W1782	2-③	SD101上	II-1	41.9	18.5	2.5	1.4	7.6	4.5	6.3	4.6	9.6	8	追衤目	A-2	735.1
27	W4282	3-③	VI層下面	II-1	47.3	18.5	2.5	1.8	9.6	3.6	8.5	3.3	11.5	6.5	追衤目	A-3	781.6
28	W2816	2-⑧	VI層下面	II-1	55.8	22.4	3.0	1.8	10.3	9.4	(8.9)	(1.0)	9.4	11	板目	A-2	
29	W1979	2-②	VI層下面	II-1	32.5	18.0	1.7	1.5	9.3	3.1	7.7	5.0	9.8	10	追衤目	A-4	
30	W4661	3-③	VI層下面	II-1	47.1	19.8	1.7	1.5	10.3	4.6	9.5	4.3	10.9	—	板目	B-1	841.4
31	W1766	2-④	VI層下面	II-1	50.4	20.4	1.6	1.0	10.9	3.0	9.8	3.2	14.8	4	追衤目	A-4	
32	W2384	2-⑧	SD101上	II-1	51.2	23.4	2.4	1.3	10.0	7.0	8.6	5.2	11.0	9	板目	A-4	
33	W4239	3-③	VI層下面	II-1	39.8	22.6	3.5	1.0	8.3	4.8	8.0	4.9	12.8	—	板目	A-4	
34	W3159	2-⑤	VI層下面	II-1	53.7	19.6	2.4	1.0	9.1	5.1	9.1	5.0	8.4	—	板目	A-4	
35	W3918	4-③	VI層下面	II-1	34.8	21.5	2.2	0.9	10.2	5.9	8.6	2.1	13.3	7	板目	A-2	
36	W3591	2-⑧	SD101上	II-1	58.7	20.5	2.4	1.1	12.7	5.0	11.7	3.7	11.8	—	板目	A-4	
37	W2382	2-⑧	SD101上	II-1	42.6	26.1	1.9	1.4	10.7	2.9	10.1	4.9	17.8	—	追衤目	A-4	
38	W3161	2-⑤	VI層下面	II-1	50.0	23.2	2.6	1.0	9.8	5.9	8.0	4.3	12.5	7	板目	B-1+A-4	
39	W3870	4-③	VI層下面	II-1	44.2	17.9	1.8	1.2	7.6	6.8	7.2	2.1	8.9	—	板目	B-2+A-4	
40	W3876	4-③	VI層下面	II-1	43.0	16.7	1.8	1.0	7.4	6.5	7.0	2.0	8.0	—	板目	A-4	
41	W1048	2-①	VI層下面	II-1	60.6	21.7	3.3	1.4	9.7	6.9	8.3	5.2	9.4	10	板目	A-4	
42	W3471	2-⑤	VI層下面	II-1	49.5	17.5	1.5	1.0	10.5	2.7	8.2	1.6	13.0	9.5	追衤目	B-1+D-1	795.9
43	W3027	2-⑤	VI層下面	II-1	35.9	16.6	1.9	1.6	7.4	1.2	6.6	4.4	10.6	—	板目	C-2	
44	W2409	2-⑥	SD101上	II-1	42.6	23.8	3.3	2.4	12.2	3.4	11.4	7.5	12.8	—	板目	C-2	911.9
45	W2414	2-⑥	VI層下面	II-1	36.9	25.4	2.8	1.5	10.6	6.0	9.2	3.0	16.2	—	板目	C-1	
	W2307																
46	W4159	4-②	VI層下面	II-1	58.6	16.6	2.8	1.8	10.0	3.2	9.5	3.7	9.0	—	板目	B-2	882.3
47	W2884	3-②	VI層下面	II-1	41.5	17.7	2.6	1.1	9.1	4.1	7.9	2.2	11.1	7	板目	B-1+A-2	
48	W2403	2-⑥	SD101上	II-1	54.9	21.1	3.1	1.6	9.6	5.6	7.6	4.4	11.0	11.5	追衤目	C-3	

第 81 表 田下駄計測表 2

No	登録 番号	区	層 位	分類	横全長 (cm)	縦全長 (cm)	足台 厚 (cm)	厚 (cm)	前孔 間 (cm)	前孔 前長 (cm)	後孔 間 (cm)	後孔 後長 (cm)	前後 孔間 (cm)	角 度	木取り	孔 形	面 積 (cm ²)
49	W2387	2-⑧	SD101上	Ⅱ-1	48.2	24.3	3.6	1.2	9.7	6.8	8.6	4.9	12.4	6	板目	B-2	1046.1
50	W3504	2-⑤	Ⅵ層下面	Ⅱ-1	49.5	20.6	2.5	1.5	8.7	6.6	6.7	2.1	11.5	11	追柵目	D-3+A-4	911.5
51	W4224	4-②	Ⅵ層下面	Ⅱ-1	51.9	19.8	2.7	1.7	9.0	2.8	7.7	5.0	11.7	8	追柵目	C-1	989.2
52	W3984	4-②	Ⅵ層下面	Ⅱ-1	44.8	19.3	2.3	1.5	10.1	4.2	9.8	4.0	10.2	—	追柵目	D-3+A-4	790.4
53	W2429	2-⑥	Ⅵ層下面	Ⅱ-1	57.4	24.4	7.3	1.1	7.7	6.1	—	—	—	—	柵目	B-2	
54	W4302	4-②	Ⅵ層下面	Ⅱ-1	41.1	19.4	1.9	1.4	9.3	5.8	7.3	3.2	10.2	12	追柵目	B-1	741.2
55	W36	2-⑤	Ⅵ層下面	Ⅱ-1	51.3	22.1	4.6	1.9	8.9	4.1	6.6	3.6	13.9	10	板目	D-3	1005.2
56	W4470	3-③	Ⅵ層下面	Ⅱ-1	58.8	19.4	2.8	1.9	9.2	3.0	7.3	2.4	13.1	8	追柵目	D-3	1041.9
57	W3241	2-⑤	Ⅵ層下面	Ⅱ-1	61.4	21.2	3.1	1.9	10.3	7.5	8.3	1.9	11.3	10	板目	D-3	1194.1
58	W4268	4-②	Ⅵ層下面	Ⅱ-1	74.4	19.6	1.7	1.5	9.0	3.8	7.2	2.9	12.8	8	板目	D-3	1380.0
59	W4163	4-②	Ⅵ層下面	Ⅱ-1	53.8	23.1	2.5	2.2	8.9	7.6	7.3	3.7	11.1	9	追柵目	D-3	1181.8
60	W4910	3-③	Ⅵ層下面	Ⅱ-1	29.9	15.9	1.9	1.5	7.0	4.1	5.9	2.7	8.5	8	板目	D-3	
61	W907	2-⑧	Ⅵ層下面	Ⅱ-1	46.8	27.4	2.6	1.5	10.2	8.3	8.8	5.8	13.0	7	追柵目	B-2	
62	W3250	2-⑤	Ⅵ層下面	Ⅱ-1	38.9	20.3	4.7	1.5	5.9	4.3	5.0	3.4	6.9	—	板目	C-1	729.5
63	W2388	2-⑧	Ⅵ層下面	Ⅱ-1	47.5	28.3	3.0	1.6	10.9	8.6	9.8	5.7	13.8	5	板目	C-1	1229.5
64	W4214	3-③	SD101上	Ⅱ-1	40.5	26.8	5.8	1.2	6.6	8.7	7.1	4.4	12.8	—	板目	A-4	
65	W925	2-①	Ⅵ層下面	Ⅱ-1	47.8	17.4	2.1	1.2	9.2	3.3	7.3	2.3	11.4	11	板目	B-2	736.5
66	W3158	2-⑤	Ⅵ層下面	Ⅱ-1	46.8	(16.3)	2.5	1.1	—	—	—	—	—	—	板目	D-3	
67	W1783	2-③	SD101上	Ⅱ-1	50.7	21.5	2.5	1.9	9.8	6.8	7.7	2.7	11.4	11	追柵目	D-3	1017.1
68	W1922	2-③	Ⅵ層下面	Ⅱ-1	37.1	12.8	3.0	1.4	—	—	—	—	—	—	板目	A-4	
69	W2411	2-⑥	SD101上	Ⅱ-1	54.8	20.7	1.7	1.4	10.1	7.9	8.1	3.2	8.9	12	板目	C-2	1015.7
70	W3918	4-②	Ⅵ層下面	Ⅱ-1	32.9	19.7	4.7	1.2	9.8	5.3	8.4	4.9	9.1	8	追柵目	B-2	
71	W3105	2-⑤	Ⅵ層下面	Ⅱ-1	41.2	22.9	4.4	1.1	9.1	8.3	9.1	5.1	9.1	—	板目	B-1	
平 均 値					47.0	20.7	2.9	1.4	9.5	5.3	8.3	3.9	11.2	8.6			923.3
72	W2385	2-⑧	SD101上	Ⅱ-2	48.2	25.5	1.7	1.5	11.2	5.4	7.9	5.2	14.6	12.5	追柵目	A-3	
73	W1770	2-④	Ⅵ層下面	Ⅱ-2	41.2	19.9	2.0	1.1	9.0	4.9	7.1	4.3	10.6	10	板目	B-1	
74	W1552	2-③	SD101上	Ⅱ-2	39.6	18.8	2.7	1.9	7.8	4.6	6.7	3.8	9.9	6.5	板目	C-2	723.3
75	W3036	2-⑤	Ⅵ層下面	Ⅱ-2	57.3	19.1	2.0	1.8	10.7	3.9	9.1	3.8	11.1	9	板目	D-3	935.7
76	W4913	4-②	Ⅵ層下面	Ⅱ-2	33.4	15.1	1.8	1.4	8.6	4.0	6.7	2.6	8.3	13.5	柵目	D-3	
77	W4396	3-③	SD101上	Ⅱ-2	41.4	27.4	5.9	1.9	7.4	6.3	7.0	3.2	17.6	—	板目	C-3	1029.6
78	W4288	3-③	Ⅵ層下面	Ⅱ-2	54.8	23.6	1.9	1.6	11.1	3.9	11.2	2.8	11.6	—	板目	D-3	1223.9
平 均 値					45.1	21.3	2.6	1.6	9.4	4.7	8.0	3.7	12.0	10.3			978.1
79	W4416	3-③	Ⅵ層下面	Ⅲ-1	23.5	22.3	—	1.7	13.0	5.9	10.9	3.7	12.5	—	追柵目	A-2	492.2
80	W4418	3-③	Ⅵ層下面	Ⅲ-1	24.2	21.5	—	1.9	12.4	5.4	11.6	4.2	11.8	—	追柵目	A-1	495.1
81	W2573	2-⑧	SD101覆土中	Ⅲ-1	21.2	20.4	—	2.1	9.5	4.8	9.5	4.1	11.2	—	追柵目	A-2	402.9
82	W4238	3-③	Ⅵ層下面	Ⅲ-1	22.1	(19.2)	—	1.8	11.4	—	9.6	5.9	12.3	10	追柵目	A-2	376.7
83	W3674	2-⑧	SD101覆土中	Ⅲ-1	22.1	(18.0)	—	2.4	—	—	—	—	—	—	板目	A-2	
平 均 値					22.6	21.4	—	2.0	11.6	5.4	10.4	4.5	12.0	10			441.7
84	W4234	3-③	Ⅵ層下面	Ⅲ-2	46.3	18.6	—	1.8	10.3	3.9	9.9	3.2	11.0	—	板目	A-1	813.8
85	W3996	4-②	Ⅵ層下面	Ⅲ-2	30.7	19.6	—	2.0	10.8	5.7	11.5	6.0	7.7	—	板目	A-1	594.2
86	W3916	4-③	Ⅵ層下面	Ⅲ-2	33.8	19.3	—	1.9	8.4	5.6	7.5	4.0	9.6	5	板目	A-1	623.2
87	W3547	3-③	Ⅵ層下面	Ⅲ-2	41.5	19.2	—	1.5	9.8	5.5	8.5	3.6	9.5	8	板目	A-2	
88	W4213	3-③	SD101上	Ⅲ-2	53.1	30.5	—	2.7	10.9	10.0	8.2	7.8	12.6	13	板目	A-1	1534.7
89	W4458	3-③	Ⅵ層下面	Ⅲ-2	25.8	23.3	—	1.7	11.1	8.8	9.0	3.7	10.7	—	板目	A-1	538.6
90	W4295	3-③	Ⅵ層下面	Ⅲ-2	54.8	23.0	—	2.0	9.9	6.7	8.5	4.5	11.1	—	板目	A-2	1177.5
91	W4922	3-③	Ⅵ層下面	Ⅲ-2	34.6	21.5	—	1.5	10.0	6.1	6.8	4.4	10.5	18.5	板目	A-4	680.2
92	W4299	3-③	Ⅵ層下面	Ⅲ-2	51.2	23.8	—	1.8	7.2	5.0	7.2	8.1	9.8	—	板目	A-1	
93	W2968	2-⑧	Ⅵ層下面	Ⅲ-2	42.1	21.1	—	1.9	8.8	5.6	6.7	3.5	10.9	11	板目	A-2	820.2
94	W4183	4-②	Ⅵ層下面	Ⅲ-2	41.2	22.7	—	1.8	8.5	8.0	7.7	5.5	8.7	6	板目	A-4	870.2
95	W2621	2-⑥	Ⅵ層下面	Ⅲ-2	45.8	20.4	—	2.1	11.9	6.0	8.9	4.5	9.6	17	板目	A-1	889.7
96	W3985	4-②	Ⅵ層下面	Ⅲ-2	41.5	17.8	—	1.4	11.8	3.4	8.4	2.2	11.9	16	板目	A-4	693.7
97	W4301	4-②	Ⅵ層下面	Ⅲ-2	43.0	16.3	—	1.7	7.6	3.3	6.0	2.8	9.6	10	板目	A-3	663.9
98	W4181	4-②	Ⅵ層下面	Ⅲ-2	62.7	15.6	—	1.2	7.3	2.8	7.4	2.8	9.6	—	追柵目	A-2	895.5

第 82 表 田下駄計測表 3

No.	登録 番号	区	層 位	分類	横全長 (cm)	縦全長 (cm)	足台 厚 (cm)	厚 (cm)	前孔 間 (cm)	前孔 前長 (cm)	後孔 間 (cm)	後孔 後長 (cm)	前後 孔間 (cm)	角 度	木取り	孔 形	面 積 (cm ²)
99	W4243	3-拡	VI層下面	Ⅲ-2	41.6	23.1	-	2.1	9.9	4.8	8.4	3.7	13.9	5.5	板目	A-1	901.6
100	W3282	2-⑧	SD101上	Ⅲ-2	42.1	22.0	-	1.0	10.1	4.3	8.9	5.4	9.7	7.5	板目	A-1	846.9
101	W4194	4-②	VI層下面	Ⅲ-2	52.4	25.1	-	2.1	12.5	4.4	10.7	3.1	16.6	-	板目	A-1	
102	W4424	3-拡	VI層下面	Ⅲ-2	43.3	22.9	-	1.6	10.5	6.3	8.0	3.6	12.8	11.5	追粧目	A-2	879.6
103	W4058	4-①	VI層下面	Ⅲ-2	44.9	23.8	-	1.6	13.7	4.3	9.6	4.0	15.2	15	板目	A-4	
104	W3788	4-③	VI層下面	Ⅲ-2	45.2	21.7	-	1.7	7.8	3.3	8.2	3.8	14.1	-	板目	A-1	876.9
105	W2675	2-⑧	SD101上	Ⅲ-2	65.0	17.7	-	2.2	9.3	5.1	7.9	4.2	8.1	10.5	板目	A-1	1087.7
106	W4296	3-拡	VI層下面	Ⅲ-2	54.1	17.4	-	1.5	7.6	2.7	8.9	4.0	10.2	-	板目	A-2	850.1
107	W3948	4-③	VI層下面	Ⅲ-2	48.8	18.1	-	1.6	9.9	5.4	7.5	2.6	9.7	15	板目	A-1	
108	W3491	2-⑤	VI層下面	Ⅲ-2	34.7	14.3	-	1.2	8.4	3.5	8.4	2.8	7.5	-	板目	A-1	
109	W4300	3-拡	VI層下面	Ⅲ-2	54.5	23.2	-	2.1	10.7	5.9	9.3	4.7	12.0	6.5	板目	A-1	1173.5
110	W3787	4-③	VI層下面	Ⅲ-2	41.7	23.8	-	1.6	11.9	5.7	9.2	4.4	13.3	11	板目	A-1	
111	W4465	3-拡	VI層下面	Ⅲ-2	41.0	21.4	-	1.9	7.4	4.8	7.1	4.8	11.3	-	板目	A-2	753.4
112	W3882	4-③	VI層下面	Ⅲ-2	43.9	22.0	-	1.6	12.2	3.9	8.0	5.1	12.9	18	板目	A-2	868.3
113	W3219	2-⑤	VI層下面	Ⅲ-2	46.9	21.8	-	1.9	11.7	2.4	9.8	4.8	15.6	9	板目	A-1	
114	W3383	2-⑤	VI層下面	Ⅲ-2	59.0	19.2	-	1.9	9.4	7.4	8.0	3.2	8.2	10	追粧目	A-1	1047.1
115	W1774	2-③	VI層下面	Ⅲ-2	42.3	17.4	-	1.8	9.9	3.2	8.7	4.2	9.6	7	板目	A-1	691.3
116	W3056	2-⑤	VI層下面	Ⅲ-2	38.9	18.7	-	1.5	7.5	4.3	6.7	2.8	11.5	-	板目	A-1	
117	W4006	4-②	VI層下面	Ⅲ-2	46.3	13.4	-	2.0	9.6	4.3	7.7	2.8	7.6	13	板目	A-2	
118	W2991	2-⑤	VI層下面	Ⅲ-2	34.8	15.5	-	1.1	8.3	2.8	7.7	2.0	10.4	5	板目	A-4	
119	W3950	4-②	VI層下面	Ⅲ-2	46.8	25.0	-	2.2	9.8	8.0	9.1	4.5	11.9	-	板目	A-1	1043.5
120	W3186	2-⑤	VI層下面	Ⅲ-2	40.2	20.3	-	1.7	8.8	4.8	8.5	4.0	11.1	-	板目	A-3	754.3
121	W3089	2-⑤	VI層下面	Ⅲ-2	44.6	17.9	-	1.1	10.0	1.9	8.3	1.9	13.9	8	板目	A-4	
122	W4645	3-拡	VI層下面	Ⅲ-2	43.9	18.7	-	1.3	7.3	4.3	6.9	3.3	10.6	-	板目	A-4	
123	W3193	2-⑤	VI層下面	Ⅲ-2	38.5	24.8	-	2.0	9.1	7.2	7.0	2.4	14.8	8	追粧目	A-4	833.9
124	W3842	4-③	VI層下面	Ⅲ-2	44.8	23.4	-	1.3	10.0	5.9	6.9	5.2	11.9	15	板目	A-4	1012.9
125	W4146	4-②	VI層下面	Ⅲ-2	54.2	28.3	-	2.2	10.1	9.3	6.0	4.3	13.6	17	板目	A-4	1451.1
126	W4215	3-拡	SD101上	Ⅲ-2	35.3	18.2	-	2.1	10.0	2.8	6.7	2.7	12.5	15	板目	A-4	617.8
127	W3875	4-③	VI層下面	Ⅲ-2	40.2	17.9	-	1.2	9.8	4.7	7.8	2.3	10.5	11.5	板目	A-4	667.9
128	W3928	4-③	VI層下面	Ⅲ-2	48.9	23.8	-	1.0	11.2	8.6	7.6	1.0	13.4	17	粧目	A-4	
129	W4328	3-拡	VI層下面	Ⅲ-2	46.8	19.6	-	1.2	10.3	3.6	7.9	3.3	12.4	11	板目	A-4	870.9
130	W4388	3-拡	VI層下面	Ⅲ-2	37.7	14.0	-	1.7	11.1	2.0	8.0	1.2	10.6	18	板目	A-4	499.1
131	W3513	2-⑧	VI層下面	Ⅲ-2	60.4	22.0	-	1.5	11.8	5.5	8.0	5.0	11.3	19	板目	A-4	
132	W4754	3-拡	VI層下面	Ⅲ-2	53.5	19.5	-	1.6	8.9	7.6	9.1	4.0	7.4	-	板目	A-4	
133	W1851	2-③	VI層下面	Ⅲ-2	50.9	20.0	-	1.6	9.9	(5.5)	7.2	(2.8)	11.6	13	板目	A-4	
134	W3781	4-③	VI層下面	Ⅲ-2	56.3	20.8	-	1.8	8.5	6.0	7.5	2.5	11.6	5	板目	C-3+A-4	
135	W908	2-⑧	VI層下面	Ⅲ-2	34.6	24.9	-	2.3	8.3	9.5	6.6	5.6	9.7	9	板目	A-3	771.3
136	W2685	2-⑧	SD101上	Ⅲ-2	34.1	25.1	-	1.7	10.7	5.4	8.5	4.6	14.9	8	追粧目	B-4	
137	W3440	2-⑤	VI層下面	Ⅲ-2	54.1	22.9	-	2.3	10.0	5.6	7.2	5.2	11.7	13	板目	A-3	1113.5
138	W4137	4-②	VI層下面	Ⅲ-2	41.8	18.4	-	2.3	10.1	5.5	7.2	5.3	11.8	14	板目	C-2	720.2
139	W4001	4-②	VI層下面	Ⅲ-2	46.9	22.4	-	1.7	8.2	8.4	6.7	5.5	8.3	11	追粧目	A-3	916.8
140	W1112	2-①	VI層下面	Ⅲ-2	45.5	19.8	-	2.8	7.7	5.8	7.7	5.1	8.4	6	板目	C-2	874.1
141	W4560	3-拡	VI層下面	Ⅲ-2	48.0	18.9	-	2.0	10.0	3.5	9.6	3.7	11.4	4.5	板目	C-2	
142	W3566	2-⑧	SD101上	Ⅲ-2	39.1	19.7	-	2.1	8.1	6.8	7.6	4.5	8.0	-	板目	C-2	735.9
143	W3796	4-③	VI層下面	Ⅲ-2	44.3	20.3	-	2.7	7.8	3.3	8.6	2.7	8.5	13	板目	C-3	623.4
144	W1786	4-②	VI層下面	Ⅲ-2	45.8	18.4	-	1.8	11.6	2.5	7.8	3.1	12.2	17.5	板目	C-3	
145	W4092	4-②	VI層下面	Ⅲ-2	44.6	18.6	-	1.9	10.3	3.9	9.5	3.4	11.1	5	板目	C-2	801.8
146	W4652	3-拡	VI層下面	Ⅲ-2	41.9	18.7	-	1.6	7.9	4.0	7.7	3.5	10.8	-	板目	C-2	750.6
	W4653																
147	W4289	3-拡	VI層下面	Ⅲ-2	45.5	21.1	-	2.8	10.2	4.9	7.2	4.2	11.9	14	板目	C-2	
148	W3252	2-⑤	VI層下面	Ⅲ-2	39.6	17.4	-	3.0	9.1	2.7	6.8	3.0	11.6	11.5	板目	C-2	670.6
149	W56	2-⑤	VI層下面	Ⅲ-2	40.4	17.5	-	2.3	10.0	2.7	7.9	3.1	11.6	9.5	板目	C-2	690.1

第 83 表 田下駄計測表 4

No.	登録 番号	区	層 位	分類	横全長 (cm)	縦全長 (cm)	足台 厚 (cm)	厚 (cm)	前孔 間 (cm)	前孔 前長 (cm)	後孔 間 (cm)	後孔 後長 (cm)	前後 孔間 (cm)	角 度	木取り	孔 形	面 積 (cm ²)
150	W3249	2-⑤	VI層下面	Ⅲ-2	57.1	25.4	—	2.4	9.4	7.5	8.2	2.8	14.5	5	板目	C-2	1395.0
151	W3251	2-⑤	VI層下面	Ⅲ-2	41.3	17.2	—	2.1	9.3	4.3	9.4	3.1	9.6	—	板目	C-2	670.2
152	W4815	4-②	VI層下面	Ⅲ-2	40.9	16.6	—	1.8	9.6	6.6	8.2	2.6	7.2	12	板目	C-2	645.3
153	W913	2-⑧	VI層下面	Ⅲ-2	65.7	17.4	—	1.6	10.5	4.6	8.1	3.6	8.4	16	板目	C-2	1087.1
154	W3785	4-③	VI層下面	Ⅲ-2	69.8	19.9	—	2.3	10.7	5.2	11.1	5.7	9.4	—	板目	C-3	
155	W3340	2-⑧	SD101上	Ⅲ-2	47.7	23.3	—	1.5	10.5	6.2	7.2	3.9	12.8	14.5	追柵目	C-2	1039.2
156	W3341	2-⑧	SD101上	Ⅲ-2	42.9	22.3	—	1.8	10.8	7.1	7.6	3.1	12.1	15.5	追柵目	C-2	915.3
157	W2400	2-⑥	SD101上	Ⅲ-2	41.7	22.6	—	2.4	9.5	7.0	6.7	3.7	11.7	14	板目	C-2	872.1
158	W3307	2-⑧	SD101上	Ⅲ-2	50.6	24.5	—	1.9	10.1	8.0	8.6	4.7	11.8	8	板目	C-2	1141.4
159	W4049	4-②	VI層下面	Ⅲ-2	67.6	15.4	—	1.7	9.2	2.3	7.4	2.5	10.3	9	板目	C-2	931.0
160	W3248	2-⑤	VI層下面	Ⅲ-2	45.7	23.4	—	2.6	9.6	5.2	8.2	3.2	9.9	5.5	板目	C-3	988.9
161	W3034	2-⑤	VI層下面	Ⅲ-2	40.0	18.8	—	1.5	7.8	2.5	7.4	3.2	12.4	—	板目	C-2+C-3	688.2
162	W1784	2-③	SD101上	Ⅲ-2	56.0	24.6	—	2.6	11.0	8.0	8.1	4.0	12.6	13	板目	B-2	1303.7
163	W3074	2-⑤	SD101覆土中	Ⅲ-2	28.2	19.1	—	3.1	12.3	4.4	11.0	4.7	9.3	10	板目	C-3	488.3
164	W2152	2-③	VI層下面	Ⅲ-2	37.1	24.4	—	2.5	8.4	9.2	6.6	4.0	10.7	9	板目	C-3	852.6
165	W3072	2-⑤	SD101上	Ⅲ-2	45.5	23.1	—	1.7	8.7	7.8	8.0	4.8	10.1	—	板目	C-3	
166	W3073	2-⑤	SD101上	Ⅲ-2	43.9	23.5	—	2.0	8.1	8.7	8.1	5.2	9.5	—	板目	C-3	
167	W3972	4-②	VI層下面	Ⅲ-2	46.5	18.5	—	1.8	9.3	5.7	7.6	2.4	9.2	11	板目	B-2	
168	W4156	4-②	VI層下面	Ⅲ-2	39.8	26.4	—	2.2	10.0	6.5	8.8	4.6	14.9	5	追柵目	B-2	920.0
169	W3075	2-⑤	VI層下面	Ⅲ-2	44.4	28.9	—	1.8	10.2	12.8	8.9	8.3	7.8	11	板目	C-3	1197.6
170	W4096	4-②	VI層下面	Ⅲ-2	45.2	22.3	—	1.9	10.4	6.3	7.0	2.4	13.0	15	板目	D-3+B-1	963.1
171	W1781	2-③	SD101上	Ⅲ-2	44.3	15.3	—	1.6	8.2	3.6	8.5	3.1	8.4	—	板目	B-1	662.5
172	W2985	2-⑤	VI層下面	Ⅲ-2	53.6	21.9	—	1.9	11.0	5.7	7.9	1.8	14.1	12	板目	B-1+B-2	1063.6
173	W3243	2-⑤	VI層下面	Ⅲ-2	42.5	20.7	—	2.2	7.6	4.2	6.6	5.8	9.9	6	板目	C-1	
174	W4619	3-拡	VI層下面	Ⅲ-2	71.7	16.6	—	1.8	9.1	4.2	7.1	3.6	8.0	15	板目	A-4	1119.2
175	W4751	3-拡	VI層下面	Ⅲ-2	80.4	22.0	—	1.9	11.7	5.8	8.8	3.0	13.0	14	板目	A-4	
176	W3091	2-⑤	VI層下面	Ⅲ-2	55.5	21.9	—	2.1	10.1	5.1	9.0	2.7	13.7	9	板目	B-1+D-3	1179.3
177	W3459	2-⑤	VI層下面	Ⅲ-2	33.4	15.8	—	1.6	8.9	2.9	6.7	2.1	9.3	12.5	板目	D-3	501.6
178	W3104	2-⑤	VI層下面	Ⅲ-2	53.4	23.3	—	2.0	10.0	5.5	9.5	3.0	14.5	—	板目	B-1	1217.0
179	W4216	3-拡	SD101上	Ⅲ-2	36.2	20.2	—	2.4	9.1	3.0	7.0	2.7	14.4	9	板目	D-3	717.8
180	W1785	4-②	VI層下面	Ⅲ-2	48.1	20.8	—	1.9	11.1	6.2	9.0	3.9	9.2	13	板目	B-2+C-1	929.4
181	W3475	2-⑤	VI層下面	Ⅲ-2	42.6	22.8	—	2.1	9.0	3.7	9.0	4.2	14.2	—	板目	D-3+B-3	
182	W4313	3-拡	VI層下面	Ⅲ-2	72.6	18.2	—	2.0	8.3	4.8	6.4	3.2	8.0	9.5	板目	D-3	
183	W9	2-⑤	VI層下面	Ⅲ-2	70.0	17.4	—	2.2	7.0	2.4	6.8	3.2	10.7	—	板目	D-3	1133.0
184	W2440	2-⑥	VI層下面	Ⅲ-2	44.6	18.1	—	1.9	6.3	5.5	5.6	4.0	7.7	6	板目	B-3	
185	W2179	2-③	SD101上	Ⅲ-2	45.8	19.5	—	1.5	9.4	3.8	7.4	3.6	12.1	10	板目	D-3	828.5
186	W4097	4-②	VI層下面	Ⅲ-2	52.3	20.3	—	1.7	9.4	1.3	7.3	3.3	11.5	11	板目	D-3	980.8
187	W4440	3-拡	VI層下面	Ⅲ-2	40.0	15.3	—	1.6	10.6	2.0	7.6	2.3	10.0	19	板目	D-3	570.5
188	W3849	4-③	VI層下面	Ⅲ-2	59.0	21.5	—	1.4	10.6	6.5	7.2	1.4	13.0	16	追柵目	B-3	1157.9
189	W1840	2-④	VI層下面	Ⅲ-2	65.1	21.1	—	2.0	8.6	5.9	7.3	2.8	11.4	6.5	板目	D-3	1256.0
190	W4089	4-②	VI層下面	Ⅲ-2	64.2	19.3	—	1.4	11.0	1.8	8.6	3.8	10.8	13.5	板目	B-2	
191	W4093	4-②	VI層下面	Ⅲ-2	55.5	20.6	—	1.5	10.3	5.8	6.8	1.9	12.8	15.5	板目	D-3	
	W4099																
192	W3469	2-⑤	VI層下面	Ⅲ-2	38.4	23.9	—	1.9	9.3	6.3	7.4	6.2	10.9	10	板目	D-3	
平 均 値					47.0	20.6	—	1.9	9.6	5.2	8.0	3.8	11.1	11.3			888.1
193	W4250	4-②	VI層下面	Ⅲ-3	39.7	23.4	—	1.9	10.1	5.3	8.5	4.9	12.8	8	板目	A-1	
194	W923	2-①	VI層下面	Ⅲ-3	37.2	20.6	—	1.8	7.0	5.8	5.9	4.5	10.3	6	板目	A-3	722.9
195	W3433	2-⑤	VI層下面	Ⅲ-3	28.3	18.4	—	3.1	7.0	4.9	5.9	3.4	9.9	8	板目	A-1	
196	W2097	2-③	VI層下面	Ⅲ-3	52.2	19.7	—	1.4	9.5	6.8	7.3	4.1	8.3	15	板目	A-1	
197	W3991	4-②	VI層下面	Ⅲ-3	48.3	19.7	—	1.8	10.5	3.8	7.2	3.1	12.7	15	板目	A-1	913.7
198	W919	2-①	VI層下面	Ⅲ-3	41.6	20.9	—	2.6	8.5	6.1	7.5	5.3	9.4	5.5	板目	A-3	777.2
199	W3745	3-拡	VI層下面	Ⅲ-3	49.5	23.9	—	2.0	9.1	7.3	9.4	6.7	9.6	—	板目	A-1	1104.9
200	W4774	3-拡	VI層下面	Ⅲ-3	39.6	18.6	—	1.7	8.7	3.8	6.9	2.2	12.3	7.5	柵目	A-1	594.1

第 84 表 田下駄計測表 5

No.	登録 番号	区	層 位	分類	横全長 (cm)	縦全長 (cm)	足台 厚 (cm)	厚 (cm)	前孔 間 (cm)	前孔 前長 (cm)	後孔 間 (cm)	後孔 後長 (cm)	前後 孔間 (cm)	角 度	木取り	孔 形	面 積 (cm ²)
201	W2386	2-⑧	SD101上	Ⅲ-3	46.4	25.8	—	1.8	11.7	9.6	8.4	3.3	12.5	16	板目	A-1	1086.2
202	W3880	4-③	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	44.3	20.9	—	1.2	10.0	4.4	7.2	2.8	10.4	11	追柵目	A-4	860.3
203	W3723	3-③	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	42.6	18.1	—	1.0	9.2	5.2	7.0	3.8	8.7	15	板目	A-4	
204	W3202	2-⑤	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	53.0	19.7	—	1.5	8.0	6.1	6.0	2.7	10.9	12	板目	A-4	
205	W4218	3-③	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	54.1	18.5	—	1.8	9.5	3.8	7.0	2.0	12.3	11	板目	A-4	
206	W3439	2-⑤	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	36.5	18.9	—	1.1	8.2	3.8	6.5	1.9	13.0	8	板目	A-4	
207	W3952	4-②	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	52.1	23.9	—	1.6	11.0	8.0	7.8	4.5	11.3	17	板目	A-4	
208	W3879	4-③	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	38.9	20.0	—	1.9	11.0	6.3	8.3	2.1	11.3	13.5	追柵目	A-4	734.3
209	W1623	2-③	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	50.6	20.0	—	1.2	11.0	5.6	7.9	1.4	12.9	13.5	板目	A-4	
210	W3426	2-⑤	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	43.0	18.1	—	1.3	10.9	4.8	8.5	2.8	10.0	15	板目	A-4	
211	W2571	2-⑧	SD101上	Ⅲ-3	55.1	18.9	—	2.4	11.7	4.3	9.1	2.9	10.9	12	板目	A-4	
212	W3247	2-⑤	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	65.4	20.1	—	2.2	10.8	5.3	9.3	4.1	10.5	8	板目	A-3	1264.6
213	W3244	2-⑤	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	54.1	21.6	—	2.2	7.6	6.5	6.2	2.4	12.5	7	板目	A-3	
214	W2125	2-③	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	39.5	20.5	—	2.2	8.5	5.0	8.8	6.0	9.0	—	板目	C-2	
215	W3084	2-⑤	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	47.8	21.7	—	1.5	10.4	5.7	7.2	4.8	11.1	16	板目	C-2	902.2
216	W3782	4-③	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	44.7	23.5	—	1.5	8.6	3.7	8.0	5.8	13.3	—	板目	A-3	956.4
217	W3109	2-⑤	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	54.6	25.0	—	3.1	7.0	7.7	7.4	5.6	10.7	—	板目	C-3	1257.6
218	W4356	3-③	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	47.7	25.6	—	1.4	11.7	8.8	7.9	4.3	11.7	20	追柵目	C-3	1174.8
219	W3112	2-⑧	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	45.9	19.9	—	2.5	11.1	4.4	8.3	4.2	11.2	15	板目	C-2	840.6
220	W4360	3-③	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	50.5	25.6	—	1.7	9.8	9.1	8.6	5.1	10.4	8	板目	C-3	
221	W4094	4-②	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	41.1	17.7	—	1.5	7.2	4.3	7.0	4.5	8.7	—	追柵目	C-2	666.5
222	W3082	2-⑤	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	50.8	21.5	—	1.5	3.1	7.4	6.4	3.6	10.0	16.5	板目	C-2	927.7
223	W3062	2-⑤	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	36.6	19.0	—	1.9	9.0	4.5	9.0	4.8	9.7	—	板目	C-2	650.4
224	W3296	2-⑧	SD101上	Ⅲ-3	46.9	19.8	—	2.7	11.1	3.6	8.0	3.8	12.0	14	板目	C-2	
225	W15	2-⑤	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	42.8	21.2	—	2.4	7.8	7.8	7.7	3.8	9.1	—	柵目	B-4	859.8
226	W2155	2-③	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	51.3	19.7	—	1.6	—	—	—	—	—	—	板目	C-2	
227	W3951	4-②	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	43.5	12.9	—	1.7	11.4	2.1	9.9	1.7	8.9	10	板目	A-2	547.3
228	W4447	3-③	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	52.9	22.8	—	1.7	10.4	4.4	7.3	5.3	12.8	15	板目	C-3,A-2	1130.3
229	W4005	4-②	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	42.3	17.0	—	2.0	8.3	4.6	8.0	1.5	10.5	—	板目	D-2	673.8
230	W4030	4-②	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	54.3	24.8	—	2.2	9.6	10.3	6.9	5.1	9.0	17.5	板目	C-1	1306.6
231	W4031	4-②	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	53.6	24.4	—	2.1	8.3	11.3	7.2	2.9	9.9	7	板目	C-1	1282.0
232	W55	2-⑤	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	65.8	19.9	—	1.4	11.5	3.7	8.0	2.6	13.1	15	板目	D-3	1268.8
	W49																
233	W2112	2-③	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	49.4	21.7	—	2.4	10.4	4.0	7.9	5.1	12.1	11.5	板目	B-1	968.8
234	W4095	4-②	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	45.3	21.8	—	1.5	9.1	7.9	7.6	3.7	10.0	9	板目	D-3	935.2
235	W4362	3-③	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	47.6	25.0	—	1.8	11.3	8.4	8.0	5.3	11.1	17	板目	C-3	1154.4
236	W1501	2-⑧	SD101上	Ⅲ-3	42.5	28.1	—	2.8	10.1	10.4	7.7	5.1	12.2	11.5	板目	D-3	
237	W3259	2-⑤	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	51.2	22.0	—	2.1	—	—	—	—	—	—	追柵目	B-2	
238	W4559	3-③	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	45.4	20.1	—	1.7	10.2	3.9	8.0	3.5	12.8	10.5	板目	D-3	
239	W4568	3-③	Ⅵ層下面	Ⅲ-3	57.3	25.5	—	1.3	11.2	7.0	8.2	4.0	10.5	15	追柵目	D-3	
	平均 値				47.3	21.2	—	1.9	9.5	5.9	7.7	3.8	10.9	12.2			946.7
240	W914	2-⑧	Ⅵ層下面	Ⅳ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	板目		1354.9
241	W57	2-⑤	Ⅵ層下面	Ⅳ	57.6	22.4	—	2.6	—	—	—	—	—	—	板目		
242	W3468	2-⑤	Ⅵ層下面	Ⅳ	34.1	14.1	—	2.1	—	—	—	—	—	—	板目		430.0
243	W3449	2-⑤	Ⅵ層下面	Ⅳ	41.7	19.5	—	1.5	—	—	—	—	—	—	板目		755.5
244	W3779	4-③	Ⅵ層中	Ⅳ	38.3	17.2	—	2.5	—	—	—	—	—	—	板目		649.1
	平均 値				42.9	18.3	—	2.2	—	—	—	—	—	—			797.4